Yokohama
Artsite
2018 Report

横浜市地域文化サポート事業　ヨコハマアートサイト2018実施レポート　2019年3月31日発行

URL: https://y-artsite.org/　TwitterID: @Y_Artsite　Facebook: https://www.facebook.com/yokohama.artsite/

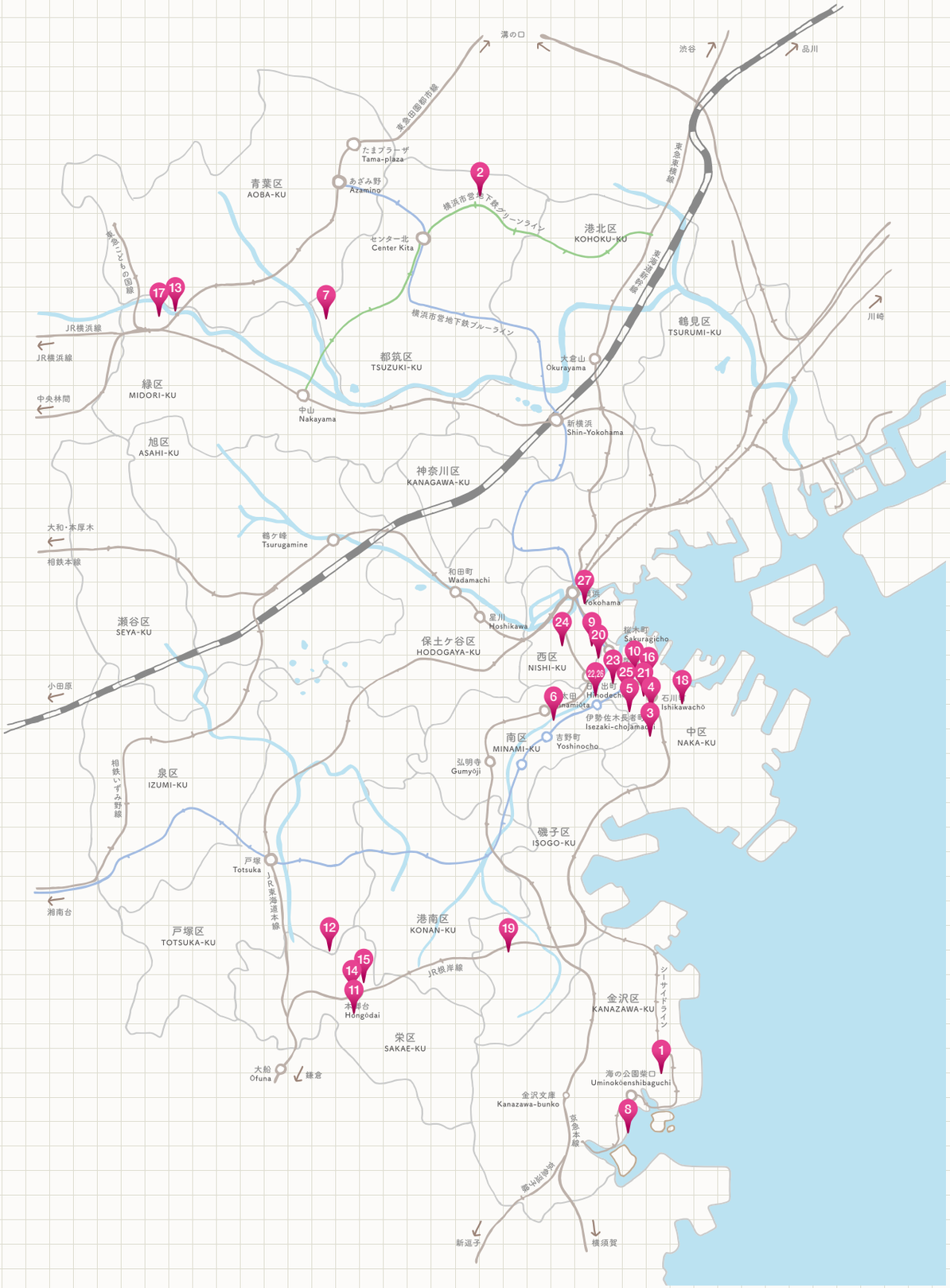
発行：ヨコハマアートサイト事務局（認定特定非営利活動法人STスポット横浜、横浜市文化観光局、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
編集：認定特定非営利活動法人STスポット横浜　デザイン：相澤事務所株式会社　印刷・製本：株式会社 三島印刷

ヨコハマアートサイト事務局　〒220-0004　横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208（認定特定非営利活動法人STスポット横浜 地域連携事業部 内）
TEL：045-325-0410　FAX：045-325-0414　MAIL：office@y-artsite.org

ヨコハマアートサイト

2018　実施レポート

地域のアート活動を
応援します



目次

CONTENTS

01 CONTENTS

02 INTRODUCTION

03 OFFERING CIRCULAR

REPORT（団体名50音順）

04 1 アーティストネットワーク＋コンパス
「会社まるごとギャラリー2018」

06 2 特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク
アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト

08 3 認定NPO法人あっちこっち
アート・フォー・コミュニティ～若手アーティスト達が
人と地域コミュニティをつなぐためのスタート事業～

10 4 石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会
石川町ストリートアートプロジェクト

12 5 居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会
カドベヤ・オープンDAY―つどおう・かたろう・つながろう

14 6 大岡川アートプロジェクト実行委員会
大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなぁど2018」

16 7 かたるべハッピーザ
かたるべハッピーザ

18 8 金沢文庫芸術祭実行委員会
第20回金沢文庫芸術祭

20 9 紙芝居文化推進協議会
第19回手づくり紙芝居コンクール

22 10 特定非営利活動法人 S.A.I.
「部屋を育てる」アートプロジェクト
（セノグラフィックアートの視点から部屋～街を考える）

24 11 さかえegaoプロジェクト
さかえegaoフェスティバル

26 12 NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと
こころに響く打楽器作っちゃおう

28 13 都筑アートプロジェクト
米からアート「二つの米から考える」

30 14 ティーンズクリエイション組織委員会
Wakamono Arts Festival 2018

32 15 一般財団法人日本京劇振興協会
こども京劇プロジェクト in Yokohama

34 16 Picture This Japan
PICTURE THIS 2018:
横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト

36 17 NPO法人ぷかぷか
みんなでワークショップ

38 18 特定非営利活動法人横浜山手アーカイブス
横浜山手今昔　＜絵葉書の世界～新関光二コレクション～＞

40 19 洋光台ママゴスペルサークル　なないろハーモニー
そのままで輝こう♪～ゴスペルコンサート＆ワークショップ～

42 20 横浜開港アンデパンダン展実行委員会
第七回横浜開港アンデパンダン展＆干支の絵展

44 21 横浜キネマ倶楽部
映画『どっこい！人間節 寿・自由労働者の街』上映会 in 寿町
～寿町をもっと知ろう!最後の1人まで見捨てない街!～

46 22 横浜下町パラダイスまつり実行委員会
横浜下町パラダイスまつり2018＋よこはま若葉町多文化映画祭2018

48 23 横浜シネマネットワーク実行委員会
ハマ映画スタンプラリー　プロジェクト

50 24 横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会
横浜・藤棚シネマ商店街2018

52 25 ライフアートユニオン
みんな集まれ！木曜広場

54 26 LifeWorksプロジェクト
横浜を舞台にした連作ショートフィルム「Life Works」への製作、
活動助成

56 27 LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA
LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA ART
PROGRAM 2018
～子どもの感性を磨く多文化共生グローバルアート活動～

58 ヨコハマアートサイト2018を振り返る

64 季刊ヨコハマアートサイトバックナンバー

あいさつ

INTRODUCTION

2020年のオリンピックやパラリンピックを契機として、国レベルでの文化振興の重要性が注目されています。こういった動きと並走するかたちで、地域に暮らす人々が文化に触れ、その創造にかかわる大切さが、じわじわと広い支持を得つつあるのを感じます。

横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2018は、地域でコミュニティの活性化や地域資源の活用に取り組む文化芸術事業の発信と成長をサポートする場です。地域の魅力や特性を活かし、まちの活性化につながる、個性ある文化発信を続ける事業の支援を行っています。

今年度は2018年7月～2019年1月に開催する助成対象事業を公募し、27団体が参加しました。地域内外でのにぎわいを創出するアートフェスティバル、さまざまな地域課題にアプローチするコミュニティアート、横浜の魅力を発信するアートプロジェクトの3つのテーマで各団体が取組を続け、多くのまちの人びとを巻き込んだ取組を行いました。

団体を支えるヨコハマアートサイト事務局は、認定特定非営利活動法人STスポット横浜・横浜市文化観光局・公益財団法人横浜市芸術文化振興財団の協働で運営を行っています。横浜の地域文化を考える広報誌「季刊ヨコハマアートサイト」の刊行や、交流する場「アートサイトラウンジ」の開催も行いました。

各団体のアート活動の報告は、まちづくりや教育、福祉など文化芸術が隣接する領域へどのような息吹を伝えたかという観点で読むと、さらに深く内容を捉えることができそうです。私たちのホームタウンである横浜を、アートを通してより魅力的にするための参考にしていただければ幸いです。

2019年3月

ヨコハマアートサイト事務局

（認定特定非営利活動法人STスポット横浜、横浜市文化観光局、
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

募集案内

OFFERING CIRCULAR

ヨコハマアートサイト2018募集

公募概要

対象期間

2018年7月～2019年1月

対象となる活動

以下のいずれかのテーマを含み、横浜市内で実施される美術、映像、音楽、舞台美術などにかかわる文化芸術活動。

※期間中、不特定多数が参加できる催しが含まれていること。

ART FESTIVAL
アートフェスティバル

YOKOHAMA ART SITE アートフェスティバル 2018 Report

アートを通じて地域資源の魅力を引き出し、開催地域内外のにぎわいを創出するもの

COMMUNITY ART
コミュニティアート

YOKOHAMA ART SITE コミュニティアート 2018 Report

アートを通じて福祉・環境・街づくり・国際交流等における地域課題にアプローチするもの

ART PROJECT
アートプロジェクト

YOKOHAMA ART SITE アートプロジェクト 2018 Report

横浜の歴史や自然、景観などに着目し、アートを通じて横浜の魅力を市内外へ発信するもの

活動資金は1件につき10万円～200万円を助成します。

ただし、これまでに開催実績がある継続活動は原則、助成対象経費の2分の1以内の助成となります。
また、継続して助成する期間は、5年を目安とします。
（6年目も申請は可能ですが、採択の優先度は低くなります。）

このほか助成以外に、季刊ヨコハマアートサイト、チラシ、ウェブサイト、実施レポートなどによるプロモーションや、参加団体間の交流（キックオフ・ミーティング、研修、報告会など）をサポートします。

金沢区

会社まるごとギャラリー2018

アーティストネットワーク＋コンパス

連絡先
URL　http://www.anc3434.com
E-mail　info@anc3434.com
TEL　045-785-3434
Facebook　https://www.facebook.com/ANC3434/

団体紹介
任意団体「アーティストネットワーク+コンパス」のスタッフ及び、外部アドバイザーを通じて企画・運営しています。金沢区福浦界隈の工場地域にて特有の地域性を生かした活動を展開。不利を有利に利用しての発信、近隣協力工場の繋がり、拡大を目指します。

会期：2018年9月8日（土）～2019年1月27日（日）
会場：山陽印刷株式会社、海の公園、メルヘン（産業振興センター店）、株式会社坪倉興業、シーサイドライン新杉田駅 ほか
来場者数：382人

参加アーティスト：片岡操、川名マッキー、コントオル、五十嵐道子、小川敦子、秋元直樹、田中清隆、女子美術大学芸術学部 デザイン・工芸学科プロダクトデザイン科アップサイクルデザインプロジェクト松本ゼミ、女子美術大学大学院環境デザイン領域飯村ゼミ、関東学院大学共生デザイン学科淡野ゼミ、展示（販売協力＝やまゆりの、田中絵奈、小川敦子、しばたあい、岡典明、大森牧子、衛守和佳子、上野彰子）

主催：アーティストネットワーク+コンパス
共催：NPO法人Aozora Factory（10月20日のイベントのみ）
後援：横浜市金沢区役所
協力：山陽印刷株式会社、株式会社坪倉興業、株式会社南部フーズ、株式会社ニットー、株式会社山菱、鶴見金網株式会社、玉家運輸倉庫株式会社、有限会社協和タイヤ商会、株式会社セキド、株式会社中込製作所、株式会社横浜シーサイドライン、株式会社横浜八景島、並木コミュニティハウス、株式会社メルヘン、株式会社ヨコハマ機工、株式会社HIGASHI-GUMI、東海シヤリング株式会社、有限会社竹内紙器製作所、株式会社関東プリンテック、NPO法人Aozora Factory

会社まるごとギャラリー展示風景　撮影者／川名マッキー

実施イベント

9月8日（土）	金沢区工場撮影散歩
9月16日（日）	金沢文庫芸術祭 アートブース
9月23日（日）	アイシングクッキーでハッピータイム
9月29日（土）～10月27日（土）	会社まるごとギャラリー2018作品展示
9月29日（土）	オープニング・ギャラリーツアー
10月3日（水）、10月17日（水）、10月24日（水）、10月25日（木）	ギャラリーツアー
10月13日（土）	不織布を使ってミサンガをつくろう
10月20日（土）	光とカゲで遊ぼう
10月27日（土）	クロージング　「利き酒」の会
1月21日（月）～1月27日（日）	「金沢区工場撮影散歩」写真作品展示

工場とアートを組み合わせて新たなコラボレーションを生む

工場地域ならではの魅力を発信するため、稼働している工場や会社の空間を使った美術展を開催するプロジェクトの6年目。今年のテーマは「コラボレーション」としました。仕事も遊びも、みんな力を合わせたら1＋1＋1＝10くらい面白くなる！というイメージです。展示空間は、メイン会場である山陽印刷の社屋内外、山装社屋のエントランスホール、坪倉興業と鶴見金網の屋外スペース、シーサイドライン新杉田駅構内、新たに協和タイヤ商会の屋外スペース、ヨコハマ機工の社屋エントランスが加わった計7か所。回を重ねるごとに少しずつ地域での知名度もあがり、こうして参加企業が増えていることはうれしい成果です。協力工場の数も増え、金沢区福浦地区から周辺の地域へと拡がりを見せています。

今回初となる取組は展示最終日のクロージングイベントです。協力企業の社長、社員の方々との交流イベントとして、作家による酒器を使った「利き酒」ワークショップとライトインスタレーションを坪倉興業内会場にて実施。同じまちに工場や社屋を持つ企業がアートイベントを通じて集まったことで、これまでとは異なったかたちの新しい交流が生まれました。

また、前回に引き続き美術大学のゼミによる作品展示や、近隣大学によるワークショップが生まれるなど学校との連携も進んでいます。協力工場から提供された廃材や製品を素材とした美術作品の展示や、アーティストによるワークショップも、毎年パワーアップしています。しかし、工場地域という土地柄もあり集客は課題です。ギャラリーツアーを含めた展示公開日を増やすなど、引き続き、さまざまな工夫が必要です。出張企画としては、「金沢文庫芸術祭」アートブースに初参加。恒例となりつつある金沢まつりいきいきフェスタ「Aozora Factory」では印刷会社の使用済みインキ缶を使ったワークショップを実施しました。今後も他団体とコラボレーションし、魅力を発信していきます。

川名マッキー「金沢区・工場撮影散歩」ワークショップ風景
横浜シーサイドライン車両工場内にて
撮影者／川名マッキー

小川敦子
「アイシングクッキーでハッピータイム！」ワークショップ風景

オープニングイベント
「ギャラリーツアー」風景
撮影者／川名マッキー

都筑区
緑区
ほか

アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト

特定非営利活動法人
アーモンドコミュニティネットワーク

連絡先
URL　https://almondcommunitynetwork.com
E-mail　npoacn@gmail.com
TEL　045-594-7566
Facebook　https://www.facebook.com/NPOAlmondCommunityNetwork/

団体紹介
傾聴活動を土台とし、青少年から高齢者まで幅広い年代の市民や外国に繋がる市民が参加。「不登校・貧困・ひきこもり」といった生きづらさを抱える子ども青少年のために、孤立することのない共生の社会と平和なコミュニティの実現を目指して活動しています。

語りと効果音楽とオリジナル影絵劇の上演

会期：2018年9月16日（日）～2019年1月12日（土）
会場：アーモンドホープセンター
来場者数：439人

参加アーティスト：牧田あゆみ、バルバラ・ラーキ、星野拓、祓是清、金子まや、西村亜季子、谷川マユコ、菅野智子、イタリア・ウルビーノ美術専門学校'Scuola Del Libro'の学生20名

主催：特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク
共催：横浜に聴くプロジェクト
協力：イタリア・ウルビーノ美術専門学校'Scuola Del Libro'

実施イベント

9月22日（土）	横浜北部の民話に聴く「オリジナル影絵劇上演・音と語りを知ろう」
	おとぎ話の秘密書庫「ミニ影絵劇制作ワークショップ」
9月30日（日）	'闇を恐れず光を恐れず'アニメーション上映＆アートセラピーと対話
	アートによる青少年支援「指導者養成アートワークショップ」
10月4日（木）	「影絵劇の音つくり、語りの体験」ワークショップ（青少年対象）
10月27日（土）	民話がつなぐコミュニティ～横浜とイタリア～横浜北部の民話に聴く
	講演会とアニメーション上映会
10月27日（土）	グローバル交流会（スカイプ）「横浜とイタリアを繋ぎ、アートで対話する」
1月12日（土）	アートによる青少年支援「ミニ影絵劇制作ワークショップ」
9月16日（日）～1月12日（土）	展示民話イラスト作品展示「おとぎ話の秘密書庫」第2回

青少年がアーティストと生み出すオリジナルの民話

生きづらさを抱える青少年とアーティストを結び、共同制作を通して個性を発揮するプロジェクトも、これで7年目です。昨年度、横浜北部の民話からアニメーション作品を制作したことを発展させるかたちで、今回はオリジナル民話の創作に挑戦しました。日本歴史学者と元ひきこもりの作家が、横浜の民話をリサーチ。いくつかの物語に着想を得て、青少年が短編小説を書きおろしました。

出来上がった作品は、イベントで朗読を披露しただけでなく、英訳をつけ、一冊の本にまとめました。挿絵はイタリアで活動するアーティストと、若手アニメーターが担当。このアニメーターというのは、元々は参加者としてプロジェクトに関わっていた青少年の一人です。今ではアートの道へ進み、アニメーターとして活動しています。このプロジェクトは、青少年の表現活動を見守るだけでなく、アーティストとしての就労支援活動という側面も持ち合わせているのです。出来上がった本も、自分の作品を売り込むための大事な資料。自分で表現したものが形になるという喜びに触れた青少年たちは、晴れがましい顔をしていました。

民話をもとにした影絵劇の上演やワークショップも好評でした。前回は活動場所を増やしたことで散漫になってしまったという反省があったため、今年度は、子ども食堂としても活用している団体拠点に会場を絞って実施しました。計画と実施面で、アーティストとスタッフのコミュニケーションが取りやすく、滞りなく事業を進めることができました。また「専門アーティストではない市民をアートワークショップ指導者に育成する」という目標に向かっても一歩踏み出すことができました。

幼虫がサナギになるように、人も成長の過程で不安定な時期を迎えます。表現活動やアーティストとのやり取りを通じて、青少年がそれぞれの凸凹な個性を発揮できる場を生み出すことで、新たな生き方のロールモデルに出会うことを目指し、取組を継続していきます。

「横浜北部の民話がつなぐ」歴史文化講演会

幼稚園児～高齢者参加の
ミニ影絵劇キット制作ワークショップ

アートワークショップと影絵劇の
指導者養成発表会

イタリアの参加アーティストとの
グローバル交流会
スカイプで繋ぐ

中区
南区

アート・フォー・コミュニティ
～若手アーティスト達が人と地域コミュニティをつなぐためのスタート事業～

認定NPO法人あっちこっち

連絡先
URL https://acchicocchi.com/
E-mail info@acchicocchi.com
TEL 090-1261-1308
Facebook https://www.facebook.com/npoacchicocchi/
Twitter @npoacchicocchi

団体紹介
芸術をもっと身近に楽しく♪元気な社会を一緒につくっていく！をモットーに、アーティストと芸術を必要とする人々をつなぐ社会貢献活動に取り組んでいます。横浜市内の芸術施設や教育施設ほか、東北と熊本の被災地でコンサートやワークショップを開催しています。

会期：2018年8月18日（土）～2019年1月23日（水）
会場：みなとみらい線　みなとみらい駅イベント広場（みらいチューブ）、エリスマン邸地下ホール、横浜市本牧地区センター音楽室、横浜市大倉山記念館ホール、Kosha33、山手・よりみちハウス1階キッズコネクション、横浜市市民活動センター
来場者数：1,080人

参加アーティスト：石河美和子、楢原いちご、安川みく、岡田澪、本間達也、青木智哉、金子泉、降旗真理子、鈴木研吾、佐藤瞳、加藤亜希子、若狭英雄、星野美香、岩下真麻

主催：認定NPO法人あっちこっち
協力：CRファクトリー、みなとみらい駅ナカ祭実行委員会、キッズコネクション、ライフデザインラボ、かいじゅうの森ようちえん

Wa（話）Wa（和）Wa（輪）MM駅ナカ祭り

実施イベント

8月18日（土）	生演奏でダンス！ @Wa（話）Wa（和）Wa（輪）MM駅ナカ祭り
10月28日（日）	音楽を楽しむワークショップ @Wa（話）Wa（和）Wa（輪）MM駅ナカ祭り
12月2日（日）	横濱ウィンターライブ @Wa（話）Wa（和）Wa（輪）MM駅ナカ祭り
10月24日（月）、11月21日（水）、12月12日（水）	たのしい音楽ワークショップ @かいじゅうの森幼稚園
11月4日（日）、12月6日（木）、12月20日（木）	みんなでつくろう、たいけんしよう、たのしもう！
9月29日（土）、11月10日（土）、12月29日（土）	ありがとうの花をみんなで咲かせよう♪
1月23日（水）	報告会

若手アーティストとコミュニティが二人三脚で進むために

「自分たちのスキルを活かして社会貢献活動を行いたい」と考える若手アーティストたちが、コミュニティと協働して企画運営を行う力を養うためのプロジェクトの一年目。実験的な試みだけに、なかなか順風満帆とはいきませんでした。今回は、4つのコミュニティにそれぞれ異なるアーティストチームが参画し、各3回ずつのイベントを実施しました。

出演者としてイベントに参加することには慣れていても、コミュニティ側のニーズを探って企画を立てられるアーティストは、そう多くありません。まず打ち合わせの仕方や、社会人としてのマナー講座などの研修からスタートしました。

イベントは、駅でのお祭り、園舎を持たない幼稚園の音楽ワークショップ、アートスペースでのコンサート、児童発達支援・放課後等デイサービスでの音楽体験と、バリエーション豊か。どのチームも、実施前のヒアリングやリサーチ、イベント終了後の振り返りミーティングで対話を重ねることで課題認識を正確に把握し、内容をブラッシュアップしていきました。

コミュニティの課題解決に向けてアプローチするなかで、アーティストは実践的なプロデューススキルを学び、コミュニティに対して、新たな協働の可能性を提案する機会となりました。また、自分のやりたいことやスキルをアピールするのではなく、相手の立場に寄り添った企画を立てることや、ジャンルを越境してプログラムを立てる能力も育ちつつあります。いくつかのイベントは継続実施を望む声があがり、今回の実施を通して蒔かれた種がどう芽吹いていくのか楽しみです。

一方で、謝金や交通費、事務局運営費といった資金繰りには苦労しました。企画段階からアーティストが主体となって参加する為、想定以上に交通費がかさんだのが要因です。今後資金をどう調達するかが大きな課題となっています。今後は今回学んだノウハウをマニュアル化し、汎用性の高いプロジェクトを展開したいと考えています。

たのしい音楽ワークショップ
@かいじゅうの森幼稚園

ありがとうの花を
みんなで咲かせよう♪

報告会

中区

石川町ストリートアートプロジェクト

石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会

連絡先
E-mail　art.ishikawacho@gmail.com
TEL　045-641-7638
Facebook　https://www.facebook.com/street.art.ishikawacho/

団体紹介
中心開催地の商店街の代表とまちづくりに力を入れるメンバーで活動。「街とつながるアート」をテーマに、身近なアートをきっかけとして世代、性別、人種を超えた様々な人々が集まる場の提供を目指します。

落書きカーwith石川町ハロウィン

会期：2018年10月27日（土）～12月24日（月）
会場：Art n' English Studio、アートスペースと、ぎゃるりじん、HanaUta café、マーケットテラスカフェ石川町、LAUNCHPAD GALLERY、Yokohama Guesthouse HACO.、Plus M、石川町駅前通りほか
来場者数：681人

参加アーティスト：ロコサトシ、須永健太郎、土屋図形株式会社、LiuLing、手形アートMudia、鹿野佑稀、篠原敬典、Plus.M、木谷畑直美、神山豊、たかのかつら、スコーピオンズ、久保田英津子、MKMS_S、倉田るみ、金米堂、造形ユニットドゥイ、柘雄介

主催：石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会
共催：裏フェス実行委員会、石川町駅前青空マーケット実行委員会、運河パレード実行委員会
後援：石川町連合町内会
協賛：高橋自動車販売株式会社、一般社団法人横浜まちクリエイティブ、スケートボードショップfabric、古着屋チングルベル
協力：石川町連合商店街、一般社団法人濱橋会、石川町活性化委員会、諏訪神社、石川町二丁目青年部

実施イベント

10月27日（土）、10月30日（火）	ハロウィンクッキングパーティ
10月27日（土）～10月31日（水）	フェイスアートペイントでハロウィン
10月27日（土）～12月9日（日）	アーティスト作品展示
10月28日（日）、11月11日（日）～11月12日（月）、11月20日（火）、11月25日（日）、11月30日（金）、12月7日（金）、12月9日（日）、12月13日（木）、12月19日（水）、12月24日（月）	世界で一つの手形アート・歯固めを作ろう
10月28日（日）	ジャック・オウ・ランタンを作ろう＆落書きカー
10月30日（火）、11月6日（火）、11月21日（水）、12月7日（金）、12月10日（月）、12月14日（金）	黒猫マフラーズとアロマボトルの一輪挿し
11月2日（金）～11月12日（月）、11月16日（金）～11月26日（月）	アーティスト作品展示
11月4日（日）	念刑師家元 須永健太郎ワークショップ『めしあがれボナペッツ』 ー現象の中からリズムを捕まえる方法ー
11月4日（日）	ロコサトシ天井いっぱいアート展示
11月7日（水）～11月9日（金）、11月14日（水）～11月16日（金）	アイアンと木の小物展
11月10日（土）	ドゥイの川の底カーニバル
11月10日（土）	スケートボードミニパークとアートブース
11月14日（水）、12月9日（日）	消しゴム版画で絵本を作ろう！
11月18日（日）	和菓子で季節を感じよう
11月25日（日）	ロコサトシアートワークショップ
12月9日（日）	ストリートアートファッションショー

まちのイベントと連携して ストリートアートで盛り上げる

石川町駅周辺を会場に、ストリートアートというまちの新たな魅力を発信するプロジェクトの2年目。昨年度はメインの屋外イベントが台風のあおりを受けたことで、日程や内容の変更を余儀なくされました。その反省を受け、今年度は期間を2か月に伸ばし、アートを楽しむ場所や機会を増やす方向に転換して実施しました。

テーマは「まちと繋がるアート」。商店街で開催される3つのイベントとコラボレーションするほか、商店街の店舗と共にワークショップや展示を開催することで、イベントだけでなく、平日も気軽にアートに触れてもらえるような構成を考えました。

グラフィティ・アートに親しむ場として自由に落書きできる車を路上に設置したり、駅前の駐車場にスケートボードのミニパークを設営し、現役のプロスケーターをゲストに招いたりと、道行く人も親しみやすいプログラムを用意しました。かつて路上から生まれた文化でありながら、現在は開かれた場で楽しむ機会が少ないということもあり、今までにない客層の来場にもつながりました。また、昨年に引き続き、横浜を代表するウォールペイントアーティストのロコサトシさんによるアートワークショップを実施。まちに残るアート作品として、新しくオープンするゲストハウスの天井にもペイントを依頼しました。

今年度は天候に恵まれたこともあり、各イベントでのプロジェクトは盛り上がりを見せ、ワークショップは回を追うごとに参加者が増えていきました。地元の方からは「いつもと違う雰囲気の企画が新鮮」との声をいただき、少しずつアートプロジェクトがまちに受け入れられていることを実感しました。

一方、「まちの問題に取り組むアート」として、中村川のゴミから美術作品を創作するという試みでは、他イベントとの兼ね合いで設置後に撤去要請が出るなど、複数の団体が連携することの難しさを感じました。この経験を糧に、よりよい協働のかたちを探っていきたいと思います。

ドゥイの川の底カーニバル
with運河パレード

YABAIfamily
ライダーデモンストレーション
with裏フェス

ロコサトシ天井ペインティング
with Yokohama Guesthouse

中区
港北区

カドベヤ・オープンDAY
―つどおう・かたろう・つながろう

居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会

連絡先
URL　http://www.kadobeya2010.net/
E-mail　chacky@keio.jp
TEL　045-566-1251

団体紹介
異なるバックグラウンドを持つ人々が毎週火曜日に集い、「共に語り料理する」、「表象芸術系のワークショップ」、「共に食べ片付ける」、という3つの協同作業を通して、自分の新たな側面を見出し、他者とつながる場を提供しています。

コラージュの夕べ

会期：2018年7月3日（火）～2019年1月31日（木）
会場：カドベヤ、慶應義塾大学日吉キャンパス
来場者数：233人

参加アーティスト：赤津正人、稲田奈緒美、大崎晃伸、海東宏二、金澤礼子、木檜朱実、三枝まり、シリュウ、瀬野美佐、手塚千鶴子、徳永彰、花崎杜季女、花崎三千花、松元康太

主催：居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会
後援：慶應義塾大学教養研究センター
協力：コトラボ合同会社、一般社団法人「地唄舞普及協会」、黒沢美香＆ダンサーズ、The Dance Times

実施イベント

7月3日（火）、10月9日（火）、1月22日（火）	「和を嗜む」
7月10日（火）、1月15日（火）	「手品、まずはここから」
7月17日（火）	「カドベヤ餃子ナイト！」
7月24日（火）、12月25日（火）	「カドベヤのアートワークショップ」
7月31日（火）、12月4日（火）	「からだを聴く」
8月7日（火）、10月23日（火）	「ほぐまり手当塾」
8月14日（火）	「だべってダンスーー寿音頭」
8月21日（火）	「僕もあなたもコレオグラファー」
8月28日（火）、11月6日（火）	「はじめの仏教」
9月11日（火）	「カドベヤのチラシを作ろう」
9月18日（火）、12月18日（火）	「絵手紙を描こう」
9月25日（火）	「トーキング・スティック」
10月2日（火）、1月8日（火）	「皆で樂書きをしよう！」
10月16日（火）	「お題を出すから描いてみて！」
11月13日（火）	「5行詩を書こう」
11月20日（火）	「素読・音読・遊んどく？」
11月27日（火）	「みんなで太極拳」
12月11日（火）	「コラージュの夕べ」
1月29日（火）	「でっかい絵を描こう」
1月31日（木）	「『カドベヤ』の10年を振り返る」

火曜日の居場所で考える クリエイティビティとアートの関係

カドベヤは、毎週火曜日にワークショップで体と心をほぐす「ストレッチ」と、みんなで夕食を作って食べる「夕めし」で、さまざまな背景を持つ人々が職業や肩書に関係なく、アートを介してつながる地域の居場所です。

今年度は居場所の運営に加え、コミュニティにおけるアートの意義について考える会を開始しました。具体的には、慶應義塾大学で「創造力とコミュニティ」研究会を発足。大学内外で地域連携にかかわる人々を中心にcreativityとartの関係を探る問題提起とディスカッションの場を設けました。

研究会にはカドベヤの参加者も参加し、「『カドベヤ』の10年を振り返る」会では、カドベヤの運営代表者が初期の構想を語り、これまでの間に見えてきたことを共有しました。例えば、参加者が案内人として持ち回りでワークショップをリードする「ストレッチ」は、当初は講師によるワークショップでした。しかし、参加者がお互いのワークショップに参加し合うことで信頼関係が強まったのです。カドベヤでは「ストレッチ」と「夕めし」のどちらも、日常に創造的な視点をもたらすアートとして捉えていますが、話し合いを通して見えてきたことは、コミュニティにおけるアートの位置と意義の多様性、そしてアートを定義することの難しさでした。この課題には時間をかけながら取組んでいきます。

この数年で協力アーティストの数も増え、参加者もそれぞれの得技を活かしたワークショップを定期的に開催することが可能になってきました。参加者の顔ぶれも固定してきています。運営体制については、たびたび課題としてあがっていますが、専任スタッフがいないことは、効率的にマイナスである一方、この場所のかけがえのない特徴の一つでもあります。今後は、仕事をしながら居場所を運営していることをどう捉えて意義を見出すかを考察するのと同時に、この2足の草鞋の履き方を考えることで、同じような居場所のモデルになることも期待したいと思います。

みんなで作るダンス

カドベヤの書き初め

みんなで囲む食卓

南区

大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなぁど2018」

大岡川アートプロジェクト実行委員会

連絡先
URL　http://ohokagawaart.blog45.fc2.com/
E-mail　ohokagawaart.koho@gmail.com
TEL　090-2675-0013
Facebook　https://www.facebook.com/ohokagawaart/
Twitter　@ohokagawaart

団体紹介
2008年、南区吉野町～南太田界隈の大岡川周辺に光のアートを展開することを通して地域を活性化し、まちの新たな魅力を創造することを目指して活動。2009年、市民主体の実行委員会を立ち上げ、アートイベントを行っています。

光ボールを転がすことができる光のプレイパーク

会期：2018年11月10日（土）～12月16日（日）
会場：蒔田公園
来場者数：8,500人

参加アーティスト：aburabito、ふじたおさむ、三好豊

主催：大岡川アートプロジェクト実行委員会
後援：横浜市南区役所
協賛：公益社団法人神奈川県宅地建物取引業協会横浜南部支部、南区連合町内会長連絡協議会、株式会社清光社、三徳エステート株式会社、株式会社平岡電機工事、蒔田連合子ども会、株式会社グローバル横浜警備保障、株式会社敷嶋あられ嵯峨乃家本店、株式会社浅岡装飾、蒔田小学校放課後キッズクラブスタッフ、日枝小学校放課後キッズクラブスタッフ、神奈川ドライビングスクール、酒菜 源万、ぱあら～泉、カッセルカフェ、ルシェール、有限会社ミナミファーマシー、旅館松島、鮨わかし、菓子工房カノン、南吉田町内会、横浜市立日枝小学校、南太田小学校放課後キッズクラブ、株式会社横浜君嶋屋、ムツミ硝子有限会社、ブラッセリーマルミット、音灯瑜伽、チーム三角
協力：蒔田連合町内会、お三の宮地区連合町内会、吉野町町内会、太田地区町内連合会、井土ヶ谷地区連合町内会、寿東部連合町内会、中村地区連合町内会、堀ノ内・睦町連合町内会、蒔田公園愛護会、横浜市立蒔田中学校、横浜市立共進中学校、南太田おやじの会、蒔田連合子ども会、大岡川リバーアクション、まいたエコサロンの会、NPO法人Hama Bridge濱橋会、南消防団第3分団、蒔田地区青少年指導員連絡協議会、神奈川県横浜川崎治水事務所、横浜市環境創造局、横浜市南土木事務所、横浜市中村地区センター、横浜市吉野町市民プラザ、男女共同参画センター横浜南（フォーラム南太田）、油人ABURABITO、NPO法人竹もりの里、I LOVE YOKOHAMA、横浜市睦地域ケアプラザ、NPO法人よこはま里山研究所～NORA（はまどま）～、株式会社太陽住建、宮・宿・花1、2丁目町内会（順不同）※そのほか、個人サポーターの方々
広報協力：横浜市交通局、株式会社タウンニュース

実施イベント
11月10日（土）　プレイベント（運河パレード）
12月15日（土）～12月16日（日）　光のぷろむなぁど2018

地域のみんなでつくる冬のお祭り リニューアル一年目

11年目となる今回も、キャンドルライトや、アートや飲食の出店、川に面したステージでのライブパフォーマンスなどバラエティ豊かな取組で蒔田公園を彩りました。

昨年度は開催直前に実行委員長が急逝。どうにか駆け抜けるようにして開催したものの、その後については完全に白紙でした。しかし、地域住民や小中学校などから継続を望む声が多くあがり、それに後押しされるかたちで開催を決めました。

新たな体制で実施をするため、「地域のみんなでつくるお祭り」ということを改めて発信し、新たなスタート＝リニューアルオープンという意味を込めて「オープン!!」という言葉をテーマに掲げました。具体的には、プレイベントとして「運河パレード」とコラボレーションするほか、実行委員一人ひとりのつながりを生かし、周辺施設の行事に参加するなど活動の輪を広げることに注力しました。

また、実行委員内の業務についても見直しを行いました。屋台テントの設営・撤去は地元の青少年指導員に、火元の見回り・警備を南消防団に協力を仰いだことで、これまで以上に安定した運営を行うことができました。結果的にはお互いの活動をPRし合うことにもつながり、なんでも自分たちでやろうとするのではなく、まわりに助けを求めることも時には重要なのだと気付かされました。

準備段階では近隣小学校が授業の一環として参加したいという申し出があったほか、公開ミーティングに中区の小学校教諭が参加し、参加校の幅が広がりました。開催当日は公園中央を「プレイパーク」に見立て、光るボールを転がして遊べる参加型の作品をメインにしました。これまでにない試みで、子どもにも大好評でした。その周辺には近隣の小中学校の作品を配置。公園全体があたたかな光とアートに包まれました。

今後の課題としては、自立化へ向けた資金獲得がありますが、無理をせず、できる範囲で事業を継続していくことが重要だと考えています。

キャンドルの中で行われたヨガ

近隣の日枝小学校の児童が自作キャンドルを展示

子どもらによるタンスや音楽演奏など

都筑区
中区

かたるべハッピーザ

かたるべハッピーザ

連絡先
URL　https://katarube-happyzza.tumblr.com/
E-mail　katarube.happyzza@gmail.com
Twitter　@K_Happyzza

団体紹介
社会福祉法人かたるべ会と、音楽や演劇を中心として活動するアーティストとの交流活動をベースに、障害のある人・ない人との壁を超えた関係性を作り出すことを目指して活動しています。横浜市内にてパフォーマンスを行います。

バンジョークラブの発表のようす（福祉農園祭り）

会期：2018年7月10日（火）～2019年1月14日（月）
会場：障碍福祉サービス事業所うれしの、JA横浜きた総合センター隣接農地、象の鼻テラス、横浜にぎわい座のげシャーレ、障害者研修保養センター横浜あゆみ荘、第2かたるべ社・分室
来場者数：700人

参加アーティスト：青木拓磨、大道朋奈、岡田湖以、立蔵葉子、細谷貴宏、安藤僚子、星野概念

主催：かたるべハッピーザ
共催：社会福祉法人かたるべ会
協力：特定非営利活動法人スローレーベル、ゾウノハナ合唱部

実施イベント

7月17日（火）、8月7日（火）、8月21日（火）	かたるべバンジョークラブとのWS（夏）
9月18日（火）、10月2日（火）、10月16日（火）	かたるべバンジョークラブとのWS（秋）
10月21日（日）	福祉農園祭りでのライブ演奏
11月6日（火）、11月27日（火）、12月11日（火）、12月18日（火）	かたるべバンジョークラブとのWS（冬）
12月23日（日）	ゾウノハナ合唱部×かたるべ会「うたえ！クリスマス！ in ゾウノハナ 2018」
7月10日（火）、8月8日（水）、8月21日（火）、10月2日（火）、10月16日（火）、11月7日（水）、11月22日（木）、11月28日（水）、12月4日（火）、12月5日（水）、12月17日（月）、12月18日（火）、12月21日（金）、12月26日（水）、1月9日（水）、1月10日（木）	かたるべ会演劇部との演劇WS
12月12日（水）、12月17日（月）～12月18日（火）、12月26日（水）、1月9日（水）、1月10日（木）、1月14日（月）	かたるべ会演劇部との美術制作WS
1月14日（月）	かたるべハッピーザ演劇公演「自己紹介」演劇公演「自己紹介」トークショー「自己紹介」ライブアクト

福祉施設で育んだ オルタナティブな創作の場

ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017という現代アート展で出会った社会福祉法人かたるべ会のメンバーとアーティストによるプロジェクトの初年度。今年度は、かたるべ会の「バンジョークラブ」と「演劇部」それぞれの活動にアーティストが加わり、約半年間の共同制作を重ねました。

バンジョークラブの活動では、音楽ワークショップを実施。地域の方や近隣の福祉団体からも参加がありました。福祉農園や象の鼻テラスでのライブパフォーマンスでは、偶然通りがかった多数の人達に向けて演奏を届けました。一方、演劇部の活動では、部員たちとじっくり取組むことで、安心して自己の表現に向き合う時間を設けました。普段の活動で、あらかじめ決まっている台詞を発することには慣れている部員たちでしたが、外部の俳優との創作により、自分自身の言葉で語ることにも挑戦しました。

知的障害のある人たちが、健常者の社会に出て行く際にハードルとなることの一つに「自分の言葉で主張すること」があります。回を重ねるごとに、これまで他人に話せなかった自身のつらいことや、深い部分を自ら伝えようとする意識の変化が見られました。最終的な発表の場である劇場公演は、出演者の生きた言葉を引き出すようなライブ感を重視したものとなり、来場者からは「初めて見るスタイルの公演だった」「一人ひとりの個性豊かな想像力と表現に触れることができた」などの声が寄せられました。

また、舞台美術を担当した空間デザイナー・安藤僚子さんのワークショップや、精神科医で文筆家でもある星野概念さんとかたるべ会理事長・平野章さんとのトークセッションなど、公演&ライブパフォーマンスに付随して行われた企画にもさまざまな可能性を感じることが出来ました。今後は路上や公共の施設、一般的なフェスイベントなど、多くの人たちの目に止まりやすい場所で、パフォーマンスに限定せず、より多角的なイベントを企画したいと考えています。

演劇部での
ダンボールワークショップ

演劇公演本番1

演劇公演本番2

金沢区

第20回金沢文庫芸術祭

チャイハネファッションショー

会期：2018年7月1日（日）～11月11日（日）
会場：海の公園、アサバアートスクエア、文庫幼稚園 ほか
来場者数：28,200人

参加アーティスト：村山二郎、おおたか静流、大倉正之助、ロコサトシ、マジカルレインボウ、アフリカサカバ、RISO、金津流横浜獅子躍、琢磨仁、イマジン盆踊り部

主催：金沢文庫芸術祭実行委員会
共催：公益財団法人横浜市緑の協会、株式会社アミナコレクション
後援：金沢区役所、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、横浜金沢観光協会、神奈川新聞社、FMヨコハマ、テレビ神奈川
協賛：風美容院、カトリック金沢教会、金沢白百合幼稚園、株式会社 臨海サービス、山本助産院、医療法人社団 森クリニック、パレットプラザ金沢文庫、カフェギャラリー＆窯 ばおばぶ、白山 東光禅寺、セレモホール金沢文庫、ビーズ玉の世界 船山政志、みなと旅館、掛田商店、山田工業所、株式会社 エッチアールディ、金八家、浜坂医院、飯鉢 称名寺店、アサバアートスクエア、Dan design、くま薬局、一般社団法人 金沢区三師会、大成整形外科クリニック、神奈川トヨタ自動車 金沢店、まいど 金沢文庫店、啓進塾 金沢文庫校、昭和精工株式会社、むとう教材店、ふみくら茶屋、株式会社 ハウスレーベル、吉田製麺店、焼鳥番長、Zinギター工房、ジャパニーズダイニングNOBU、焼鳥 修、京葉Kidsアカデミー、居酒屋 楽、Hi!鍼灸整骨院、桜井歯科医院、一般社団法人金沢まごころの会、三ツ木屋商店、スキマキッチン、池川クリニック、株式会社 相田工務店、横須賀北ロータリークラブ
協力：愛と勇気とさんま実行委員会、Microtacs、M&N、SLOWNIN、Taguchi craftec 、ブレインバスター太陽光音響、BE-IN、ABURABITO、I LOVE YOKOHAMA

実施イベント

9月16日（日）	オープニングフェスティバル
9月16日（日）～11月11日（日）	アートラリー
7月1日（日）～8月20日（月）	子ども大型絵画プロジェクト

金沢文庫芸術祭実行委員会

連絡先
URL　http://www.bunko-art.org
E-MAIL　info@bunko-art.org
TEL　045-788-9119
Facebook　https://www.facebook.com/bunkoart/

団体紹介
「こどもの未来は地球の未来」をスローガンとし、年齢、職業、地域、問わず小学生からプロのアーティストまで様々なメンバー約50人で活動しています。参加者全てに新しい刺激を与え、地元の文化としてみんなから必要とされるイベントに育てたいと思います。

海の公園ではじまる芸術祭もついに20周年

金沢区を舞台にアートを通じて新たな一歩のきっかけを生む金沢文庫芸術祭も、ついに20周年を迎えました。オープニングフェスティバルでは、これまでもブースを出展していた雑貨店チャイハネの40周年とタイアップ。ファッションショーライブやワークショップなどスペシャルな催しを用意しました。民間企業とコラボレーションしての開催は初めての挑戦でしたが、環境保護や民族文化に対する意識など芸術祭の理念とも通じる部分が多い企業だけに、仲間意識を持って取組むことができたと感じています。

昨年度は台風の影響でオープニングフェスティバルを中止したため、今回は出展が減ってしまうのではないかという心配がありましたが、結果としては多くの出展希望があり、安心すると同時に、継続的に関係を維持することの重要性を改めて感じました。来場者も過去最高を記録し、とてもにぎやかな記念すべきオープニングフェスティバルとなりました。また、ステージの出演希望が増えていることから、芸術祭が地域の人々の発表の場として親しまれているのだと実感しました。これは、地域文化の活性化と参加者の自己実現を目指し続けてきた芸術祭にとって、喜ばしい成果です。

オープニングフェスティバルの後は、約2か月続くアートラリー。区内のカフェやアトリエなどで行われる27のプログラムをつなぎました。地元作家による常連企画も多く、少しずつ地域に根付いているのを感じます。また、地元幼稚園や小学校での大型絵画プロジェクトや、沖縄県南城市との交流も続いています。今後も、アートをきっかけに初めての場所へ行ってみたり、人との交流が生まれたりと「新たな一歩」につながるような企画となることを目指していきます。

課題は運営組織の強化と出展者との関係づくりです。また、企業との継続的なコラボレーションのためにも、いかに具体的な連携を取れるかを意識してプランニングしていくことが重要だと思っています。

迫力満点の獅子躍り

芸術祭オールスターズによる
スペシャルライブ

芸術祭キッズの
仮装衣装ファッションショー

西区
中区

第19回手づくり紙芝居コンクール

会期：2018年7月12日（木）～12月11日（火）
会場：横浜市市民活動支援センター、横浜市南図書館、
神奈川県立青少年センター、神奈川県立図書館、
伊勢佐木倶楽部CROSS STREET
来場者数：1,450人

参加アーティスト：長野ヒデ子、やべみつのり、ときわひろみ、宮崎二美枝

主催：紙芝居文化推進協議会
共催：神奈川県立青少年センター、神奈川県立図書館
後援：神奈川県図書館協会、神奈川新聞社、子どもの文化研究所、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、横浜市文化観光局
協力：京浜急行電鉄株式会社、ぺんてる株式会社

全国・海外から259点の応募

実施イベント

7月12日（木）	手づくり紙芝居指導者研修＆交流会
8月14日（火）	「声」でつながろ！
11月3日（土）	手作り紙芝居ライブ①
11月11日（日）	手作り紙芝居ライブ②
11月24日（土）	あなたが主役の実演会
	紙芝居クリニック
11月25日（日）	手づくり紙芝居コンクール本審査会
11月24日（土）～11月25日（日）	全応募作品の展示会
11月25日（日）	過去の入賞作品展示会
12月11日（火）	紙芝居イセザキ座特別公演

紙芝居文化推進協議会

連絡先
URL　https://kamibunkyo.jimdo.com/
TEL　080-5504-6168

団体紹介
神奈川県立図書館が20年間実施してきたコンクールが諸事情で休止となったのを惜しみ、存続を願う市民、企業等が協力して設立。会員は全国におり、コンクールの他、公演・講座の企画運営や広報誌の発行などにより、紙芝居を普及する活動をしています。

横浜から各地に広がる手作り紙芝居のネットワーク

今年度、特に力を入れたのは手作り紙芝居の指導者を育成する研修の部分です。各区で地域を題材にした紙芝居づくりが盛んになって来たことを受け、実演と合評の場を設けることでスキルアップを図りました。研修会をきっかけに複数のサークルから講師派遣の要請もあり、活動の輪が広がっていることを感じます。講師となる側も、作者の意欲を引き出すアドバイスや、それぞれの失敗談を共有するなど、会を進行するための実習を重ねたことで、重層的な学びの機会が生まれました。

プレイベントや実演会は、各地で紙芝居づくりに励む人々の発表の場として喜ばれています。観客と実演者が一体となって紙芝居世界を味わう場面が何度も見受けられました。来場者も年々増えていて、じわじわと手作り紙芝居の魅力が伝わっていることを実感しています。コンクールでは、一般の部が3年連続で過去最高の応募数を更新しました。一方、ジュニアの部の個人応募は年々減少傾向にあります。今後は、近隣の小学校や公共施設に応募要項等を配布することに加え、情報が子どもたち個人に届くような仕掛けを考えたいと思います。

例年課題となっていた運営組織の人手不足については、実行委員を若干名増やすことができました。イベント時のスタッフだけでなく、作品受付や通知発送などの事務に関しても新メンバーが加わり、その先入観にとらわれない貴重な意見は、会議を活性化してくれました。これまでは「大変だから手伝ってほしい」という気持ちが大きかったのですが、今回は研修会や交流会を通して、活動の楽しさや魅力をアピールしたことが効を奏したようです。また、事務局の動きをマニュアル化したことで、関われる人が増え、一人ひとりの負担軽減につながりました。

引き続き課題となっているのは運営資金の確保です。寄付の呼びかけや講習会での資料代徴収など、こつこつと収益をあげる努力も継続しつつ、さらなる可能性を模索したいと考えています。

サークルの紙芝居作りをサポート

実演して初めてわかる
おもしろさ

ジュニアの部の観客賞

一般の部の観客賞

中区

『部屋を育てる』アートプロジェクト（セノグラフィックアートの視点から部屋～街を考える）

特定非営利活動法人 S.A.I.

連絡先
URL　http://www.sai-npo.com/
E-mail　info.npo.sai@gmail.com
TEL　050-5276-6947
Facebook　http://fb.com/1350311731704422
Twitter　@saiinfo

団体紹介
特定非営利活動法人S.A.I.は、舞台美術家、舞台監督が主体となり活動している団体です。2012年から品川を拠点に活動しておりましたが、この度関内にアトリエを構えることとなりました。新たな地、横浜でも文化芸術による地域再生を目的に活動します。

関内 演劇的フィールドワーク　撮影者／もてスリム

会期：2018年9月24日（月）～2019年1月19日（土）
会場：伸光ビル301号室、関内のまち
来場者数：115人

参加アーティスト：山内健司、浅沼秀治、石神俊大、三浦直之、杉浦裕樹、伊藤康文、松本永、北尾亘、米田沙織、櫻井淳、吉田小夏、福寿奈央、長島確

主催：特定非営利活動法人　S.A.I.
協力：特定非営利活動法人 有形デザイン機構、舞台美術研究工房 六尺堂

実施イベント

9月24日（月）	プロセス1: 関内_演劇的フィールドワーク
10月8日（月）	プロセス1: 横浜関内の一室から考える ギリシャ悲劇のセノグラフィー
10月28日（日）	プロセス1: オープンミーティング
11月17日（土）	プロセス2: 「部屋」に「街」を持ち込むワークショップ
12月1日（土）	プロセス2: カラダで眺めるヨコハマ関内
12月8日（土）	プロセス2: オープンミーティング
12月15日（土）	プロセス3: 部屋と対話する―ヨコハマ関内編
1月12日（土）	プロセス3: 部屋の解体新書の作り方
1月19日（土）	プロセス3: オープンミーティング

パフォーミング・アートの目線で関内のまちを歩いてみる

セノグラフィーの発想で地域とつながる取組の一環として、関内の遊休不動産を活用したアトリエをオープンするプロジェクトの初年度。セノグラフィーは、主に「舞台美術」と訳され、英語ではScene（場／エピソード）+Graphic（視覚表現）と表されます。

今年度は、全体を3つのプロセスに分け、ワークショップと参加型ミーティングを繰り返しました。関内というまちと、まちの空間の最小単位である「部屋」の関係を探ることをテーマに、さまざまな側面からリサーチし、関係を浮き彫りにすることが狙いです。パフォーミング・アートの視点を軸に舞台美術、舞台照明、コンテンポラリーダンス、劇作、ドラマターグなど、さまざまなジャンルのアーティストをナビゲーターとして招きました。参加型ミーティングでは、関内と造詣の深いアーティストや事業者による討論が生まれ、プロジェクトを次に進めて行く上での重要なヒントがいくつも見つかりました。

当初はリサーチの結果を元に、部屋のリノベーションを行う予定でしたが、回を重ねるごとに、じっくりリサーチを行う方向へ転換していきました。美術や建築に興味のある参加者が多く、いつもと違う視点でまちを見ることで、新鮮なおどろきを与えることに成功しました。ダンサーがナビゲーターを務める回では、まちを歩く中で見つけたエッセンスをもとに短いダンス作品を創作。まちを「体で眺める」という体験を生み出すと同時に、今後「部屋」を会場に、ワークショップから公演へと展開していく新たな方向性も見えてきました。

各プログラムの内容は充実していましたが、広報には苦労しました。対象を設定する上で、セノグラフィーの思想を共有することの難しさを改めて感じました。

来年度はアーティストを中心とした研究会などをもとにリノベーションを行うため、一旦クローズドな企画となりますが、3年目にはワークショップ、公演、勉強会などの実践プログラムで地域とつながりたいと考えています。

キックオフワークショップ
撮影者／もてスリム

「部屋」に「街」を持ち込むワークショップ
撮影者／もてスリム

カラダで眺めるヨコハマ関内
撮影者／もてスリム

部屋と対話する―ヨコハマ関内編―
撮影者／もてスリム

部屋の解体新書の作り方
撮影者／もてスリム

栄区

さかえegaoフェスティバル

さかえegaoプロジェクト

連絡先
URL　http://ega-oproject.com
E-MAIL　katura@smile.odn.ne.jp
TEL　045-891-5190
Facebook　https://ja-jp.facebook.com/sakaeegaoproject/

団体紹介
栄区の福祉事業所とアーティストがコラボレーションして物作りを行いイベントの開催もしています。障害があってもなくても一緒にアートを楽しみ喜ぶプロジェクトです。

染色家栗原俊子による彩り豊かな会場装飾と作品展示

会期：2018年7月14日（土）～11月24日（土）
会場：栄公会堂、栄区田谷栗林生活支援センター、栄区桂町笹のお庭、地域活動支援センターegao、地域作業所まってる、わ～くくらぶ栄、朋第二すぺーすモモ ほか
来場者数：1,009人

参加アーティスト：栗原俊子、石黒陽子、松本光世、高橋寛行、カイフチエリ、ASADA

主催：さかえegaoプロジェクト
共催：栄区役所

実施イベント

7月14日(土)、8月19日(日)、8月26日(日)、10月6日(土)、11月3日(土)	クラフトワークショップ
9月16日(日)	染色ワークショップ　栗
9月22日(土)	染色ワークショップ　笹
7月24日(火)、8月3日(金)、9月25日(火)、10月23日(火)、11月13日(火)	染色ワークショップ
10月11日(木)、10月25日(木)	福祉事業所×アーティスト作品作り①
10月23日(火)、10月31日(水)	福祉事業所×アーティスト作品作り②
10月2日(火)、10月16日(火)	福祉グループ×アーティスト作品作り
11月16日(金)、11月20日(火)	福祉事業所×アーティスト作品作り③
11月1日(木)、11月12日(月)、11月19日(月)	福祉事業所×アーティスト作品作り④
11月21日(水)～11月23日(金)	egaoフェスティバル 展示期間
11月24日(土)	egaoフェスティバル

地元の素材で公会堂を染め上げた フェスティバル6年目

障害の有無にかかわらず、アートでつながるフェスティバルの6回目。今回は染色家・栗原俊子さんと区民が協力し、公会堂を彩りました。当日の装飾に使用したのは、事前ワークショップで参加者と染め上げた大きな布です。栗や笹の採集から始めるという草木染の醍醐味を体験した参加者は、達成感いっぱい。その喜びの顔には障害の有無や年齢も関係ありません。染色した和紙を切り張りして大きなタペストリーをつくるクラフトワークショップにはのべ300人が参加し、たくさんの個性あふれる作品が出来上がりました。

フェスティバル当日は、作品展、ステージパフォーマンス、染色クイズ、ワークショップ、アートバザールなど多くのプログラムが同時展開し、にぎやかな一日となりました。入口のそばには、公募で集まった作品と、6つの福祉作業所やグループとアーティストのコラボレーション作品を展示。パンフレットに各アーティストのコメントを掲載することで、作品ができあがるまでの過程も発信しました。一過性のイベントで終わらず、フェスティバルをきっかけに、インクルーシブな社会の実現につなげることがねらいです。また、講堂では、当日までの日々や染色についての映像を上映。来場者からは「裏側がわかったので、より楽しめた」と好評でした。

区内各地での事前ワークショップなど、地道に取組を発信してきた結果、今年度は来場者も、障害当事者の参加も、過去最高数を記録しました。活動を継続してきたことで、少しずつ地域に根付いているのを感じます。また、今回は区役所のイベントとコラボレーションして実施しました。プログラムが増えたことで自分たちの活動が伝わりにくくなってしまうという反省もありました。他団体と連携する時には、関わり方や伝えたいことを十分に検討し進めていかなくてはならないと感じています。今後も企画のブラッシュアップを続け、地域に愛されるイベントとして育てていきたいです。

クラフトワークショップ
草木染の和紙を折って畳んで
オリジナルな形作り

染色ワークショップ
採集から染色までを体験できる
ワークショップ

パフォーマンスのコンテスト

市内全域

こころに響く打楽器作っちゃおう

ママコンサート

会期：2018年7月25日（水）～2019年1月31日（木）

会場：聖母愛児園、横浜市浦舟地域ケアプラザ、金沢区子育て支援拠点「とことこ」、横浜市下倉田地域ケアプラザ、横浜市新山下地域ケアプラザ、横浜市立舞岡小学校放課後キッズクラブ、新山下二丁目保育所、みなみ青少年地域活動拠点ハートフルみなみ（フリースペースみなみ）、睦母子生活支援施設、瀬谷区地域子育て支援拠点にこてらす、神奈川県立こども医療センター ほか

来場者数：943人

参加アーティスト：池野ひとみ、臼井麻意子、神本愛子

主催：NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと

共同主催：横浜子育てサポートシステム金沢区支部、横浜子育てサポートシステム瀬谷区支部、横浜市浦舟地域ケアプラザ、横浜市新山下地域ケアプラザ、ひよこの会、訓練会すてっぷ、横浜こどもみらい、みなみ青少年地域活動拠点ハートフルみなみ（フリースペースみなみ）、柏葉町内会子供会、睦母子生活支援施設、神奈川県立こども医療センター、家庭倫理の会東、横浜市竹之丸地区センター

共催：横浜市下倉田地域ケアプラザ、下倉田地区社会福祉協議会、横浜市中区地域子育て支援拠点のんびりんこ、横浜市立舞岡小学校放課後キッズクラブ、新山下二丁目保育所

協力：聖母愛児園

実施イベント

7月25日（水）、	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
7月31日（火）、	
8月5日（日）、	
9月15日（土）、	
10月10日（水）、	
10月30日（火）、	
11月21日（水）、	
1月5日（土）、	
1月8日（火）、	
1月13日（日）、	
1月15日（火）、	
1月18日（金）、	
1月19日（土）、	
1月20日（日）、	
1月30日（水）	
11月29日（木）、	ママコンサート
1月12日（土）、	
1月25日（金）、	
1月27日（日）、	
1月31日（木）	

NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと

連絡先

URL	http://ashiato-dagakki.jp/
E-MAIL	info@ashiato-dagakki.jp
TEL	03-3762-6335
Facebook	https://facebook.com/ashiato.dagakki

団体紹介

「子供たちに生の音楽を」をモットーに東京芸術大学卒の池野ひとみを中心に2001年結成。のべ400カ所、4万人の子どもたちに打楽器の参加型のコンサートを行っています。横浜市内のみならず、被災者支援演奏など全国巡回中。2013年NPO法人化。

子育ての悩みも共有できる参加型の打楽器コンサート

今回は市内各地18の施設・団体と連携し、さまざまな環境の中で子育てをしている人々（里親、障害児の親、ひとり親、ワーキングマザーなど）に音楽を届けることができました。打楽器のもたらす音楽の力で親子の豊かなコミュニケーションを促し、イベントをきっかけに子育ての悩みを地域協力者と共に解決しようという取組も、少しずつ浸透してきました。参加者からは「近隣の安心できる子育ての場を知ることができた」「同じ悩みを持つ母親同士の交流や、助けてくれる周囲の人との繋がりも深められた」といった声が寄せられました。また、これまでに引き続き、各施設にマザーズハローワークのチラシを配るほか、認可保育園でのコンサートにはマザーズハローワーク職員を招き、仕事や保育園情報を知りたい母親にむけて情報を発信しました。

基本のプログラムは、親子が触れ合いながらオリジナル打楽器を作るという工作ワークショップと、プロの打楽器奏者によるコンサートを楽しみ、最後には作った楽器を手に全員で大合奏するという構成になっています。今年度は新たな取組として、大人のためのママコンサートを実施しました。イベント中に子どもがおもちゃで遊べるプレイスペース、大人のフリードリンクスペースを設置し、子育ての忙しさを少し忘れられるような癒しの空間を生み出しました。一人の人間として楽しむ時間を提供することを狙い、プログラムは、同世代だからこその盛り上がる曲を選択。普段子どもに合わせることの多い保護者にとって「大人しか知らない曲」を楽しめるというのは、新鮮な喜びをもたらしたようです。

イベントの特性上、収益化の難しい会場が多いため、運営資金の獲得は課題ですが、事業を継続してきたことで、各施設や団体との連帯は年々強くなっています。開催会場としてではなく、共に歩むパートナーとして意識の共有を図ることで取組が深まり、少しずつ活動が地域へ広がっているのを実感しています。

コンサート終了後、
母親同士の交流ティータイム

障害児とその保護者も一緒に

地域で見守る子育て

緑 区

米からアート「二つの米から考える」

屋外展示・橋村至星

会期：2018年7月28日（土）～11月11日（日）
会場：Art Space赤い家
来場者数：404人

参加アーティスト：とし田三津夫、今井紀彰、岡典明、金井聰和、松本力、襟草丁、山本麻世、橋村至星、有坂蓉子、小沢智恵子、VOQ、マルコス・フェルナンデス、トマソンズ

主催：都筑アートプロジェクト
後援：長津田連合自治会、長津田商店街協同組合

実施イベント

7月28日（土）～7月29日（日）、8月3日（金）～8月5日（日）、8月10日（金）、8月12日（日）	米からアート～はじまりはじまり～小品展
7月28日（土）	アーティストトーク・私のアメリカ体験 オープニングパーティー
8月11日（土）	特別講座　横浜の農業
8月12日（日）	クロージング線香花火大会
10月20日（土）～10月28日（日）、11月2日（金）～11月4日（日）、11月9日（金）～11月11日（日）	米からアート～二つの米から考える　作品展
10月20日（土）	ライブパフォーマンス・トマソンズ、VOQ＋松本力 オープニングパーティー「十三夜 前夜祭」
11月3日（土）	鳥笛ワークショップ
11月4日（日）	都筑富士塚ツアー
11月10日（土）	講演会　「庭と農」
11月11日（日）	フォノグラフィ×ペインティング ライブパフォーマンス クロージングパーティー

会場風景／織（おぼり）

都筑アートプロジェクト

連絡先
URL　http://tsuzukiart.p2.weblife.me/top.html
E-MAIL　tsuzukiartproject.jimukyoku@gmail.com
TEL　045-507-3477
Facebook　https://www.facebook.com/TsuzukiArt
Twitter　@TsuzukiArt

団体紹介
横浜市北部地域在住の美術家を中心とした団体。地域の風景や歴史にアートの視点で関わりながらその場所の面白さを見出し、展覧会等を通して地域内外に発信しながら文化交流の拠点をつくります。

田畑に囲まれた地域で新たな視点から美術表現を考える

今年度は、恩田川沿いのアートスペース・赤い家を舞台に10名の作家による現代美術展を開催しました。あたりには田園風景が広がり、会場自体もアートの拠点として少しずつ育てている最中です。展覧会のテーマは「米からアート」。古代から日本文化を支えてきた穀物の米と、日本の近代化に絶大な影響を及ぼした「米（アメリカ）」という二つの米に着想を得て、作家それぞれが新作を発表しました。

会期の初めには「はじまりはじまり展」として、パーティーとトークイベントを実施。地域との連携という大きな課題へ向けた一歩として、地元農家の内藤泉さんをゲストに招き、横浜の農業について作家とトークを行いました。その他にも、アメリカに長く滞在した作家によるトークなどを実施。地域の価値を多様な視点で再考し、見直す良い機会となりました。

本展は、作品展示、レクチャー、ライブ、ワークショップなどで構成され、それぞれが同じテーマで有機的につながることで深みのある問いを生み出すことができました。緑区と青葉区の区境であることや、都心へのアクセスが良いにもかかわらず昔ながらの風景が残る環境などから、周縁性のある文化が育まれているこの土地で、作家自身も自らの表現を見つめ直すきっかけとなったようです。

また、作家の一人が建物の外壁に描いた大きな日の丸弁当は、近くを散歩する住民に、ささやかな刺激を与えることに成功しました。ジョギング中に立ち寄ったという来場者がいたり、地域住民に声をかけられたりと、会場周辺に白いのぼりを設置したことも功を奏し、少しずつ地域の認知度が上がっているのを感じました。

今後も事業を継続していくにあたって、地域の理解と協力は欠かせません。魅力的な展覧会やワークショップなどを開催することも大切ですが、同時に参加作家が地域とつながり、積極的に外に働きかける必要もあると感じてます。地域住民と作家との共同制作など、手探りで試していきたいと思います。

オープニングライブ・松本力＋VOQ、トマソンズ

富士塚ツアー・有坂蓉子

屋外展示・有坂蓉子

栄区

Wakamono Arts Festival 2018

会期：2018年7月21日（土）～11月25日（日）
会場：栄区民文化センターリリス、栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」、神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）
来場者数：727人

参加アーティスト：前田友佳、竹本真紀、高橋寛行、佐々木貴行、木暮寿子、柿沼陽子、山本淳、三浦宗一郎、水野ひまわり、佐藤良仁、宮田宣也、和太鼓 昇龍

主催：ティーンズクリエイション組織委員会
共催：さかえdeつながるアート、栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」、SAKAE NEXT PROJECT、公益社団法人かながわデザイン機構、横浜市立桂台中学校地域交流室オレンジの会、横浜市栄区民文化センターリリス（順不同）
後援：横浜市栄区、株式会社ジェイコム
協賛：石井造園株式会社、公益社団法人かながわデザイン機構
協力：神奈川県立地球市民かながわプラザ（指定管理者 公益社団法人 青年海外協力協会）、株式会社タウンニュース社

展示作品　撮影者／大宮雅智（ヨコハマ経済新聞）

実施イベント

7月21日（土）	大学生クリエイターと考える夏休み自由課題アイデア講座
11月21日（水）～11月25日（日）	Wakamono Arts Festival 2018
11月23日（金）	クイズイベント　楽しく名画を学ぶ
11月24日（土）	映像・パフォーマンス
11月25日（日）	「わかものとおとな」のキャリア教育講座
11月25日（日）	「祭」でつながる若者と地域

ティーンズクリエイション組織委員会

連絡先
URL　https://sakaenextproject.site/
E-MAIL　sakaenextproject@gmail.com
Facebook　https://www.facebook.com/events/253182678648066/
Twitter　@SNP_SakaEdition

団体紹介
「ティーンズクリエイション展2017」をきっかけに集まったメンバーで結成。企画段階から若者による主体的運営を目指し、幅広い世代との協働や交流を通してイベントを作り上げます。アートを通して地域活動を盛り上げ、市民生活を温かく豊かにすることがねらいです。

若者が主体となって地域で輝くフェスティバル

「Wakamono Arts Festival」は、2012年から市民団体さかえdeつながるアートが開催してきた青少年向け企画のひとつです。今年度は、地域の若年層を巻き込んだ新たな運営組織を立ち上げ、10～20代のスタッフを中心に企画運営を行いました。地域コーディネーターや、青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」スタッフなど地域の青少年を見守るサポーターも運営スタッフの一員です。プレ企画では、大学生クリエイターのトークを聞き、中高生が夏休みの自由課題について考えるイベントを実施しました。

本展では、これまでに引き続き、区内外から公募で寄せられた作品の展示と青少年向けキャリア講座を実施するほか、新たな試みとして「ライブセッション　映像・パフォーマンス」を開催。近隣の学校による映像の上映や、和太鼓の演奏、アコースティックライブなどバラエティ豊かなプログラムで好評を博しました。

来場者は40代～70代が多く、口コミが来場のきっかけになったようです。また、区内の青少年イベントとしては栄区青少年指導員協議会と栄区役所による「SAKAEヤングフェスティバル（ヤンフェス）」がありますが、部活動単位での参加が多いヤンフェスに比べ、個人での自主的な作品応募が目立ちました。いつかはヤンフェスに並ぶ栄区の恒例行事となることが目標です。

トークセッションでは、中学生が中心となって立ち上げた「和太鼓　昇龍」や、栄区・春日神社の神輿を担ぎ続ける宮田宣也さんを招くなど、地域の魅力的な人々の発掘と紹介を行うことができました。その後、トークセッションをきっかけに、宮田さんの活動を追ったドキュメンタリー映画の上映プロジェクトチームも立ち上がり、活動の広がりを感じています。

高齢化が進む地域を盛り上げていくためにも、若い世代の中に地元のファンを増やすことが重要です。例え他の地域に移っても「これがあるから地元に帰る」というような、まちとのつながりを生み出すことができればと考えています。

ライブセッション
映像・パフォーマンス
撮影者／大宮雅智（ヨコハマ経済新聞）

トークセッションわかものと
おとなのキャリア教育講座
撮影者／岩上百合子

展示作品
撮影者／大宮雅智（ヨコハマ経済新聞）

中区
栄区

こども京劇プロジェクト in Yokohama

一般財団法人日本京劇振興協会

連絡先
URL　http://www.shincyo.com
E-MAIL　contact@shincyo.com
TEL　03-6411-4168
Facebook　https://www.facebook.com/nihonkyogeki/
Twitter　@nihon_kyogeki

団体紹介
1996年、三代京劇一家の張春祥が設立。在日京劇俳優と日本人俳優とで構成され、日本での京劇普及を目的に活動しています。子どもへの文化育成事業にも力を入れ2015年から文化庁「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」にも採択。2016年法人化しました。

3日間で京劇俳優になろう／こども京劇　指導

会期：2018年7月23日（月）～2019年1月31日（木）
会場：横浜山手中華学校、新大船幼稚園 ホール、本町小学校 体育館、神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）、リエゾン笠間、鍛冶ヶ谷カトリック幼稚園
来場者数：503人

参加アーティスト：張春祥、張桂琴、石山雄太、侯偉、劉東風、張鳥梅、張飛鳳、樋口理世、竹口美鈴、貴船恵子、チャンチンホイ

主催：一般財団法人日本京劇振興協会
後援：中国大使館文化部
協力：神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）

実施イベント

7月23日（月）、7月25日（水）、7月27日（金）	山手中華学校オープンスクール
7月31日（火）	山手中華学校お披露目会
11月5日（月）	新大船幼稚園　イベント
11月21日（水）	本町小学校キッズクラブ　イベント
1月12日（土）～1月14日（月）	3日間で京劇俳優になろう
1月14日（月）	こども京劇
1月23日（水）	リエゾン笠間　イベント
1月31日（木）	鍛冶ヶ谷カトリック幼稚園 イベント

はじめての京劇から おなじみの京劇へ

中国の伝統芸能・京劇の上演やレクチャーを通して、子どもたちの異文化体験をサポートすることを目的に、今年度は6つの施設で取組を行いました。これまでの活動をきっかけに部活動化につながった山手中華学校では、小中学生向けにワークショップを実施。その他にも幼稚園や小学校などにも訪問し、約300名の参加者が京劇に触れる機会を生み出しました。京劇の特徴である派手な化粧を初めて間近で見た子どもたちは、驚いたり興奮したり。子どもたちが怖がらないようにと、自分の顔に京劇メイクを施す先生もいました。また、初の試みとなる福祉施設での実施では、その派手なメイクや衣装が喜ばれました。鮮やかな色づかいだからこそ役者が浮かび上がって見えることに加え、「型」の芸術なので、台詞がなくても楽しむことができるという強みが、より効果的に働いたようです。終了後には、他イベントにも参加して、地域交流に貢献して欲しいという要望もあがりました。

3日間のワークショップを通して、プロの京劇俳優と共演する「こども京劇」では、昨年度の参加者が半数を占め、一過性ではない異文化体験事業としての意義を再確認しました。観客席には、各地でのワークショップに参加した園児の姿もあり、保護者からは「小学生になったら体験させたい」という声も寄せられました。山手中華学校京劇部の出演もあり、それぞれの事業が連動することで、企画全体に一体感が生まれたことはうれしい成果です。

一方、今年度はスタッフの休退職が相次ぎ、計画通りの実施運営ができなかったことが悔やまれます。広報準備の遅延が集客に直接的な影響を与えるため、次年度以降は専任の担当者を確保することが必要だと考えています。また、幼稚園や学校などは前年度中に次の年間スケジュールがほぼ確定するため、活動サイクルが合わずに苦労する面もありました。今後は、子どもに関係する団体との協働をはかるなど、新たなアプローチを検討していきます。

3日間で京劇俳優になろう／こども京劇　集合

新大船幼稚園　訪問WS＆公演

鍛冶ヶ谷カトリック幼稚園
訪問WS＆公演

リエゾン笠間　訪問WS＆公演

中区
ほか

PICTURE THIS 2018:
横浜インターナショナルユース フォトプロジェクト

作品「秋の訪れ」　撮影者／菊池恵愛

会期：2018年8月12日（日）～2019年1月20日（日）
会場：なか区民活動センター、象の鼻テラス ほか
来場者数：7,058人

参加アーティスト：大藪順子、鎌田晋明、レナタ・ヤロシャコヴァー、アンディウス・プトラ、張志臣、アナ・マスラシャスカーラタジャク、パトリック・マックニール、デニス・ヤン、斎藤マリアきょうこ、高橋美香、張アクア紅実、冨岡拓海、舟根勇志、小松明弘、馬渕逸文、陳恵美、菊池恵愛、山田ジョシュア、高橋ゆりえ、Fatima Azlam

主催：Picture This Japan
協力：象の鼻テラス、Photo Yokohama 2019（パートナーイベント）、株式会社カラーサイエンス

実施イベント

8月12日（日）	ミーティング/ボランティア講座
8月26日（日）、9月9日（日）、9月23日（日）、10月14日（日）、10月28日（日）、11月11日（日）、11月25日（日）、12月9日（日）	フォトワークショップ
1月11日（金）	写真展準備
1月12日（土）～1月20日（日）	写真展
1月12日（土）	写真展オープニングセレモニー

Picture This Japan

連絡先
E-mail　picturethisjp@gmail.com
TEL　080-3954-9371
Facebook　https://www.facebook.com/picturethisjapan/

団体紹介
横浜在住の写真家や写真好きな外国につながる大人が集まり発足。社会的に声の小さい人々にカメラを持たせ自身の内なる声を写す事で彼らの世界を内側から可視化する活動をしています。その一つとして外国につながる中高生の写真プロジェクトの運営も行っています。

写真を通して自分と向き合う外国につながる中高生たち

外国につながる中高生という、社会的に声の小さい人たちが自らカメラを持ちその人たちの目線で伝えることで存在を可視化する活動の3回目。これまでは地域の写真愛好家による団体・横浜栄写友の活動として行ってきましたが、今年度はPicture This Japanという専門の団体を立ち上げました。

全8回の撮影会では「美しい／きれいな写真ではなく、あなたにしか撮れない写真を展示する」ということを繰り返し伝えました。参加者は21人からスタートしたのですが、学校行事と重なり欠席が続いたり、約束をうまく守れなかったりということがあり、最終的には13人で展示を行いました。展示を行った参加者のルーツがある国や地域は、フィリピン、中国、台湾、アメリカ、ガーナと多岐にわたります。ここでは日本国籍者がマイノリティになる環境にしてみようとボランティアとして携わる大人も外国につながる人々に声をかけました。結果的に、中国、ポーランド、インドネシア、チェコ共和国、アメリカ、フィリピンにつながる人々と、小さなインターナショナルコミュニティーを築くことができました。

参加者の中には、こちらが教えていないような高度なテクニックを自然と体得して撮影を行う子どもも出てきました。写真展の来場者からは「作品のレベルが上がっている。撮影者によるキャプションもおもしろい」という感想が寄せられ、継続的な実施の重要性を実感しました。

写真展のオープニングでは、参加者それぞれが来場者に対して、自分の写真を通して思いを伝えることができました。団体としての目標である「外国につながる子どもたちの自己肯定感を養うこと」が達成されたと感じる一方、さまざまな理由で発表に至らなかった子どもたちに対しては歯がゆい気持ちも残ります。今後は、参加者本人だけではなく保護者との関係を深めることで、自己肯定感につながる要素でもあるコミットメントという意識を育むことにアプローチしていきたいと思います。

ゲストスピーカーとして矢野デイビッドさん
撮影者／大藪順子

作品「影と一匹狼」
撮影者／張アクア紅実

最初のワークショップの撮影会の様子
撮影者／大藪順子

参加生徒が自分の作品について話す
@オープニング
撮影者／Renata Jaroscakova

展示会の様子
撮影者／大藪順子

緑区

みんなでワークショップ

NPO法人ぷかぷか

連絡先
URL　http://pukapuka-pan.xsrv.jp/
E-mai　pukapuka@ked.biglobe.ne.jp
TEL　045-453-8511
Facebook　https://www.facebook.com/npopukapuka/

団体紹介
知的障害の人たち40名の働くパン屋、お惣菜屋、コミュニティ食堂、アートスタジオを運営。日々Facebookで情報発信、ホームページのアクセス数は30万を超えました。障害のある人もない人もお互い気持ちよく暮らせる社会を目指します。

タヌキの場面（表現の市場舞台）　撮影者／後藤京子

会期：2018年8月18日（土）～2019年1月27日（日）
会場：緑区民文化センター　みどりアートパーク リハーサル室、ホール
来場者数：676人

参加アーティスト：花崎攝、倉田春香、成沢富雄、吉村安見子、江原望、湯田亜紀、やなせけいこ, 榎本トオル、鈴木分、善岡修、伊藤多恵

主催：NPO法人ぷかぷか
共催：緑区民文化センター　みどりアートパーク
後援：横浜市緑区社会福祉協議会
協力：デフパペットシアターひとみ、オペラシアターこんにゃく座

実施イベント

8月18日（土）	第5期第1回 みんなでワークショップ
9月15日（土）	第5期第2回 みんなでワークショップ
10月20日（土）	第5期第3回 みんなでワークショップ
11月17日（土）	第5期第4回 みんなでワークショップ
12月15日（土）	第5期第5回 みんなでワークショップ
1月19日（土）	第5期第6回 みんなでワークショップ
1月26日（土）	第5期第7回 みんなでワークショップ
1月27日（日）	第5回表現の市場

演劇ワークショップで障害のある人たちと出会い直す

ぷかぷかで働く障害のある人（ぷかぷかさん）と地域の人が一緒に芝居作りをするワークショップの第五期目。7回のワークショップを重ね、最終的には「表現の市場」というフェスティバルを開催し、音楽劇を発表しました。題材は宮澤賢治「ほら熊学校を卒業した三人」。舞台に立ったのは約40人です。

今年度も参加者のアイディアをもとに、オリジナルのシーンを立ち上げてつくりました。台本があるわけではないので、どんな展開になるかは集まったメンバー次第。ほら熊学校の校歌に「なんでもいいから一番になれ」という歌詞があります。成績もお金儲けも一番、それが幸せだ、と。本当にそうなのかを問うことが今回のテーマでもありました。「大金持ちになるにはどうしたらいいか」という問題を出したことがあります。ところがそれに興味を持ったぷかぷかさんはゼロ。お金こそ一番の価値であると思っていた私たちの間違いに気付かされました。

「表現の市場」は、表現活動を行う他の障害者団体の発表にも触れられる場として定着しつつあります。太鼓やチェロの演奏や、ラップと歌に加え、新しく電動車椅子のパフォーマンスも行われました。5年前に始めた頃は客席の半分も埋まらず、さみしい思いもしましたが、今回は最終的に立ち見が出るほどのにぎわいを見せました。「一緒に生きる」とこんなに素晴らしいものが生まれるのだということが、少しずつ地域にも浸透しつつあるのを実感しています。また「支援する／される」ではない、クリエイティブな関係を築くことは、一般の参加者にとっても大きな変化を与えたようです。ワークショップでのやりとりを通して、自分の弱さや不自由さに気付いた、障害のある人のあたたかさや魅力に救われたという声もありました。

単なるレクリエーションとしてではなく、活動をいかに社会の中に位置づけていくか。事業の根底にある部分を共有できるような後継者育成が今後の課題です。

ほら熊学校の卒業記念写真（表現の市場舞台）
撮影者／後藤京子

ミツバチの歌（表現の市場舞台）
撮影者／後藤京子

みんなでライオンになった

クモの場面の背景画（表現の市場舞台）
撮影者／後藤京子

フィナーレ（表現の市場舞台）
撮影者／後藤京子

中区

横浜山手今昔
〈絵葉書の世界～新関光二コレクション～〉

特定非営利活動法人
横浜山手アーカイブス

連絡先
URL　http://www.bluff.yokohama/
E-MAIL　http://www.bluff.yokohama/contact/
（問い合わせフォーム）

団体紹介
横浜山手に関する資料の収集・体系的保存を行い、今後の研究や地域環境の保全に寄与しうるアーカイブスを構築するとともに、成果を可視化して公開し、次世代につなぐ活動をしています。まちの歴史を共有することで、まちの歴史的・文化的環境の保全を目指しています。

展示風景1

会期：2018年8月9日（木）～8月14日（火）
会場：山手234番館 レクチャールーム、ギャラリー
来場者数：1,610人

参加アーティスト：新関光二

主催：特定非営利活動法人 横浜山手アーカイブス
共催：公益財団法人 横浜市緑の協会
後援：神奈川新聞社、キリンビール株式会社、ヨコハマ洋館探偵団
協力：光写真印刷株式会社、株式会社ケイエヌクリエイション

実施イベント

8月11日（土）	昔の絵葉書を使って手紙を書こう
～8月12日（日）	ギャラリートーク
8月9日（木）	古写真・絵葉書に見る幕末・明治の世界
～8月14日（火）	新関光二コレクション

絵葉書コレクションから見る横浜山手の歴史と魅力

横浜山手は、開港時からの外国人居留地である歴史を持ち、観光地としてだけではなく、重要な歴史的資産を有する地域です。今回は、地元在住のコレクター・新関光二さんに協力を仰ぎ、幕末から明治期の山手に関連する絵葉書を中心とする貴重資料の紹介とともに現代の景観と比較する展示と新関さんによるギャラリートークを開催しました。

まず、団体の活動として作成していた地域のアーカイブデータベースを活用し、絵葉書コレクションの歴史考証を行いました。このデータベースは、山手の地番を手がかりに、日本在住の外国人の人名録や山手に関連する諸資料を地番ごとに整理したものです。これまでも、データベースを活かしたパネル展は行ってきましたが、実際の資料を展示することはできなかったため、団体にとっても新たな挑戦でした。単純に絵葉書を展示するのではなく、過去の街並みや、当時の住民に関する情報をまとめたことで、地域の歴史を掘り下げました。地元の研究者も多く訪れ、予想を上回る来場につながったことは大きな成果です。コレクターにとっても、自身のコレクションに深みが出るという付加価値が生まれたようです。

絵葉書は現在では古写真と並ぶ歴史資料として捉えられますが、作られた当時はまちの様子や文化を切り取ったアート作品として流通していました。関連ワークショップ「昔の絵葉書を使って手紙を書こう」では、絵葉書を見るだけでなく、実際に手紙を書いてみるというプログラムを実施。参加者からは「手に取ってみたら意外と小さい」「書いてみたら確かに展示作品のように文字でびっしりになった」という驚きの声が上がりました。

地域の文化を継承するためには、地域住民を巻き込んでいくことが何より大切です。今回の実施を通して、歴史資料をその地域で公開展示することの重要性を感じました。今後は、展示と地域の関わり方にさらなる工夫をこらし、山手の魅力を発信していきたいと思います。

展示風景2

ワークショップ

展示風景3

ギャラリートーク

展示物（歴史資料）

磯子区
栄区

そのままで輝こう♪
～ゴスペルコンサート＆ワークショップ～

YOKOHAMA ART SITE コミュニティアート 2018 Report

洋光台ママゴスペルサークル
なないろハーモニー

連絡先
URL　https://mamananairo.wixsite.com/nanairoharmony
E-mail　mamananairo@gmail.com
Facebook　https://www.facebook.com/nanairoharmony
Twitter　@mamananairo

団体紹介
ママになっても、子どもがいても歌やハーモニーを楽しみたいという思いを持ったママが中心となって活動しています。磯子区洋光台を中心に地域のイベントや活動に積極的に参加。ゴスペル音楽をとおして、子育て世代と地域の方々とがつながることを目指しています。

コンサート～次のステップへ～

会期：2018年7月7日（土）～2019年1月28日（月）
会場：神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）、洋光台四丁目自治会館、横浜市社会教育コーナー、洋光台地域ケアプラザ、磯子区地域子育て支援拠点いそピヨ、栄区地域子育て支援拠点にこりんく
来場者数：559人

参加アーティスト：藤原京子、澁井真代、下野恵理也、曽我部恵、荻野雄太

主催：洋光台ママゴスペルサークル なないろハーモニー
後援：洋光台地域ケアプラザ
協力：磯子区地域子育て支援拠点いそピヨ

実施イベント
7月7日（土）　コンサート
7月30日（月）、　ワークショップ
8月20日（月）、
9月3日（月）、
9月10日（月）、
10月1日（月）、
10月29日（月）、
11月5日（月）、
11月26日（月）、
12月17日（月）、
1月21日（月）、
1月28日（月）
12月3日（月）　ワークショップ＆クリスマスコンサート
12月21日（金）　クリスマスコンサート
12月25日（火）　クリスマスコンサート

子育て中のママたちが歌うことで社会とつながる

ゴスペルという音楽活動を通して、ママが楽しめる／輝ける場所をつくるプロジェクトの七年目。今年度は、ワークショップ参加者によるホールでのゴスペルコンサートに初めてチャレンジしました。会場はほぼ満席。客席でも舞台上でも、子どもたちが自由に踊ったり泣いたり歌ったりと、とてもにぎやかな空間になりました。ゴスペルの魅力の一つに「互いに、ありのままの輝きを尊重し合う」ということがあります。正しいピッチやリズムで歌うのも素晴らしいことですが、ここでは一人ひとりがのびのび楽しむことを一番大事にしています。コンサートでは、そんなゴスペルの魅力と、参加者が生き生きと歌う様子を地域の方々へ発信することができました。

毎月のワークショップでは、ピアノの生演奏に合わせてプロのゴスペルディレクターによるレッスンを重ねました。楽譜は持たず、体を動かしながら歌を楽しむライブのような雰囲気です。参加者からは「子ども連れで気兼ねなく、思いっきり歌える場所」「ママが主役となって楽しめる場所はありがたいし、ずっと継続して欲しい」という声が多く寄せられました。育児中であっても自分のことをあきらめずにいられる場の重要性を改めて感じています。また、同世代の交流だけでなく、子育てを終えた世代の参加もありました。

しかし、初めてのホールコンサートで周知を図ったにも関わらず、参加者数は伸び悩みました。子育て支援施設でのPRを積極的に行い、SNSも活用するなど、いろいろな方法で呼びかけに努めましたが、大幅な参加者増にはつながりませんでした。現在は働くママも増え、ケアプラザや社会教育コーナーなどの子育て支援活動でも参加者数は減少傾向にあります。一方、乳児向けのクリスマスライブは盛況で、産休・育休中の居場所や活動場所が求められているのを感じました。今後も、より多くの方に体験してもらえるよう地域のニーズを意識し、PRする場所や方法も模索していきます。

抱っこしながら歌うママといきいきと歌う子どもたち

にぎやかなワークショップ風景

ワークショップ風景
アーティストを中心に地域の方とつながる場所

西区

第七回
横浜開港アンデパンダン展&
干支の絵展

横浜開港アンデパンダン展
実行委員会

連絡先
URL　http://independants.jp/
E-mail　daikichirumis@yahoo.co.jp
TEL　070-6646-3977
Facebook　https://www.facebook.com/groups/479492229106085/

団体紹介
横浜を愛する作家が中心となって運営しています。少子化が問題の現在、芸術文化に携わる人口も間違いなく減少していきます。横浜開港アンデパンダン展は、伊勢山界隈を芸術文化の聖地とすることで、芸術文化の弱体化を防ぎ、次世代に紡いでいく事業です。

会場内

会期：2019年1月1日（火）～2019年1月31日（木）
会場：横浜にぎわい座、横浜市民ギャラリー、伊勢山皇大神宮
来場者数：18,150人

参加アーティスト：情木勇、浅野康則、槇本薫、山内庸数、藤原厚子、堀江忠男、細貝義昭、岩渕ケイ子、石田俊哉、小泉さかえ、品川成明、松本幸一、佐々木義文、瀬川行弘、宮崎和之、濤川典子、清水和恵、林奈保美、薬王寺太一、玉生一江、木本淳、西山彰、堀篤子、熊ガイタケシ、高島豊、星埜恵子、荒井令子、成澤朱未、木村有仁子、折茂潔、緒方かおる、古川巧、妻木由利子、丸雄治、小山一芳、三堂信、山崎任史、大類直、北村祐子

主催：横浜開港アンデパンダン展実行委員会
後援：横浜市文化観光局、神奈川県、公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団、神奈川新聞社、テレビ神奈川（TVK）、FMヨコハマ、読売新聞横浜支局、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局
協力：アートスペースイワブチ、画廊楽、ギャラリーSHIMIZU、ギャラリーぴおB1、仲通りギャラリー、万国橋ギャラリー、みつい画廊、リーブギャラリー

実施イベント

1月1日（火）～1月31日（木）	干支の絵展（亥年）
1月8日（火）～1月14日（月）	第七回横浜開港アンデパンダン展
1月13日（日）	横浜開港アンデパンダン展パフォーマンスイベント 横浜開港アンデパンダン展トークショー ワークショップ 土器・土偶作り 縄文パフォーマンス

自由なアート作品を公募し
横浜のモンマルトルを目指す

伊勢山をアートのメッカにすることを目標に、今回も横浜市民ギャラリー全館を使用したアンデパンダン展を開催しました。アンデパンダン展は無審査・無褒賞・自主独立の展覧会です。日曜画家から専従画家まで多種多様な作家が参加し、「なんでもアリ」だからこそ、新しいことに挑戦しようと意欲的な作品が多く寄せられました。

地域への広がりを意識し、屋内外でのパフォーマンスイベントと、にぎわい座での干支の絵展も実施。野外パフォーマンスは今年度も、市民ギャラリーのすぐそばにある伊勢山皇大神宮の会場提供により実現しました。ちょうど初詣シーズンだったこともあり、展示スペースは縮小となったものの、参拝に訪れた家族連れなどが気軽にアートに触れる機会となりました。コンテンポラリーなアート体験をねらって始まったこの試みですが、今回はパフォーマー同士の交流からコラボレーションパフォーマンスが生まれるなど思わぬ成果にもつながりました。個人の作品評価の場ではなく、主義主張の異なる作家同士がつながり、相互理解を深める場として浸透しつつあることを実感しています。

干支の絵展では、参加作家たちが、自身の絵画教室やワークショップなどで市民と制作した絵を展示。色々な表現で描かれた亥が並びました。普段なかなか絵を描く機会のない方も、年賀状を書くことをきっかけに美術に親しむ機会となったようです。美術との新しい出会いを促すという意味では、「縄文アート」をテーマにした特別企画も好評でした。横浜市歴史博物館と連携して土器の展示や、縄文の美と力にインスパイアされた現代美術作家の作品を展示するなど、これまでにない層へ向けたアプローチを行いました。

今後の課題は、さらなる出品者数の確保や若い世代への働きかけです。サブカルチャー要素の強い作品など、紋切型な「アート」のジャンルにはまらないために、これまで発表の場がなかった人々が活躍できるような場を盛り上げていきたいと思います。

干支の絵展

パフォーマンス

縄文マイム

中区

映画『どっこい！人間節 寿・自由労働者の街』上映会 in 寿町～寿町をもっと知ろう！最後の1人まで見捨てない街！～

横浜キネマ倶楽部

連絡先
URL https://ykc.jimdo.com/
E-MAIL yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp
TEL 080-8118-8502
Facebook https://www.facebook.com/kinemaclub/
Twitter @YokohamaKinema

団体紹介
横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。

シンポジウムの模様（後方）

会期：2018年9月1日（土）～9月22日（土）
会場：寿地区内、神奈川県立かながわ労働プラザ
来場者数：294人

参加アーティスト：加藤彰彦、高沢幸男

主催：横浜キネマ倶楽部
協力：横浜社会福祉研究会、横浜市従業員労働組合

実施イベント
9月1日（土）　寿地区フィールドワーク
9月22日（土）　映画「どっこい！人間節」上映会

映画のロケ地めぐりから未来への展望を語り合う

今年度は、横浜が舞台となった映画を、そのロケ地で上映する企画をスタートさせました。これまで上映活動を重ねてきた横浜キネマ倶楽部にとっても初の試みです。上映作品として選んだのは、ドキュメンタリー映画監督・小川伸介による「どっこい！ 人間節 寿・自由労働者の街」。1975年の寿地区を映したこの作品を通して、過去と現在の寿地区に触れることをねらいとしました。

まず実施したのは、少人数でのフィールドワークです。同じような特徴を持つ東京・山谷や大阪・釜ヶ崎と違い、案内窓口を持たないため、なかなか訪れる機会がないからと市外からの参加もありました。団体代表者が同地区の生活保護ソーシャルワーカーだということを活かし、簡易宿泊所の見学やインタビューなど、現在のまちの様子を肌で感じるプログラムを企画。参加者からは「想像とは違って平和そうだった」「子どもがいたことに驚いた」という感想が寄せられ、ロケ地めぐりが単純な観光イベントとしてではなく、土地の背景や、そこで生活する人々に対する理解を深める機会となったことを感じました。

かながわ労働プラザで行った上映会では、予想を大幅に上回る279人が来場。年齢層も幅広く、地域住民や福祉関係者の姿もありました。また、初めてモノクロ映画やドキュメンタリー映画を見た観客にとっては、新鮮な鑑賞体験となったようです。上映の前後には、寿生活館で生活相談員を務めていた加藤彰彦さん（沖縄大学名誉教授）と寿支援者交流会事務局長である高沢幸男さんによるシンポジウムを開催。観客は、スクリーンの中での出来事と、現場を語る生の声に出会うことで、より豊かな理解を得ることになりました。

映画という架空の世界に対して、想像や理解を促進するために始めた試みですが、結果的には体感を通じてまちに対する理解を深めるとても有意義な実践となりました。これからも「映画」と「現場」を組み合わせて、実りある内容を追求していきます。

上映前ロビー

上映会場入口

上映前の挨拶

シンポジウム登壇者

中区
西区
ほか

横浜下町パラダイスまつり2018＋よこはま若葉町多文化映画祭2018

横浜下町パラダイスまつり実行委員会

連絡先
URL　http://downtownart.hama1.jp/
E-mail　yokohamawakaba@gmail.com
Facebook　https://www.facebook.com/ParadiseFes/
Twitter　@ParadiseFes

団体紹介
日々変わりゆく多文化な下町若葉町において、多様な価値の共存の在り方を思考すべく、町の映画館シネマ・ジャック＆ベティと連携しながら、2009年から毎年夏に近隣の詩人やダンサーなどアーティストたちが主体となってプロジェクトを展開しています。

若葉町ゾンビ　撮影者／大野隆介

会期：2018年7月25日（水）～9月2日（日）
会場：横浜パラダイス会館、シネマ・ジャック＆ベティ、大岡川、ヨコハマアジアンダイニング＆バー ほか
来場者数：1,922人

参加アーティスト：来島友幸、中村剛彦、青山るり子、青山ふじこ、青山たまこ、テン・ヴァン、女装アオちゃん、今井紀彰、乾信治、砂山典子、たんぱりん、スズキクリ、米野みちよ、真鍋祐子、渡邊一孝、佐藤章雄、太田エマ、中村高寛、太田貴、カツマタマリア、岩井成昭、梶原俊幸、大野隆介、中野淳一、ビッグイシュー販売員カマちゃん、ビッグイシュー販売員シモちゃん、Art Lab Ova

主催：横浜下町パラダイスまつり実行委員会
共催：Art Lab Ova、シネマ・ジャック&ベティ、よこはま若葉町多文化映画祭実行委員会
後援：横浜市中区役所、公益財団法人 横浜市国際交流協会
協力：若葉町町内会

実施イベント

8月1日(水)、8月8日(水)	Art in Context : Learning from the Fieldを読む会
8月16日(木)	ヨコハマメリー中村高寛監督「メリーさんと伊勢佐木界隈」
8月11日(土)～8月12日(日)、9月1日(土)～9月2日(日)	女装アオちゃん「大岡川で魚を釣って食べてみた」
8月8日(水)、8月15日(水)、8月24日(金)、8月29日(水)	横浜の空手衣屋さん佐藤章雄「ハチャメチャ空手道場」
8月4日(土)、8月10日(金)、8月19日(日)、8月26日(日)、9月2日(日)	アーティスト来島友幸「粉もんキッチン」
8月25日(土)～8月26日(日)、8月31日(金)～9月2日(日)	中野さんと調子の悪さを語る会
8月25日(土)	フィリピンにつながる会社員太田貴さん「そーいうことか！ 外国人技能実習制度 ～報道されないその実態をお伝えします～」
	立ち去った女：フィリピン音楽研究者 米野みちよさん食事会
8月25日(土)、9月1日(土)	モン族テン・ヴァン＋ダンサー青山るり子「モン族のおばけ話」
8月25日(土)、9月2日(日)	モン族テン・ヴァン＋ダンサー青山るり子「モンのがたり dab neeg」
8月26日(日)	タクシー運転手 ～約束は海を越えて～：
	「光州事件で読む現代韓国」著者 真鍋祐子さん交流会
	横浜古典遊技場乾信治先生「落語～茶の湯」
	肉とダンスの夕べfeat.スナッチ
8月27日(月)	横浜古典遊技場乾信治先生「体験！鉄道模型の世界」
	彼の見つめる先に：若葉町ブラジリアン・バーのママさん食事会
8月28日(火)、8月30日(木)	詩人中村剛彦「若葉町コトダマップ～松永延造・荒畑寒村編その2」
8月29日(水)	Journey to be continued
	-続きゆく旅-：岩井成昭監督トーク食事会
8月30日(木)	カメラマン大野隆介「ゾンビ映画を撮ろう！」
8月31日(金)	たまこ＋ふじこ＋るりこ「ダンス整体＋こどもちゃんちゃんお茶会」
	乾先生とベリーダンスショー！
	@ヨコハマアジアンダイニング＆バー（飲食代実費）
9月1日(土)	モン族テン・ヴァン＋ダンサー青山るり子
	「Hmong Times～ニャッタイ（母方祖母）のお葬式」
9月1日(土)	ナゾの男たんぱりん＆スズキクリ「ワンダフル・ドアーズライブ」
9月2日(日)	フィナーレ＊みんなで手持ち花火大会！
8月25日(土)～9月2日(日)	よこはま若葉町多文化映画祭2018
7月25日(水)～9月2日(日)	多文化なこどもたちとただひたすら遊ぶ会
8月25日(土)～9月2日(日)	三代目うお時「頑固焼き」
8月25日(土)～9月2日(日)	ビッグイシュー販売

映画館のある多文化なまちでアーティストと過ごす夏休み

映画館と、その一階にある拠点・横浜パラダイス会館を中心としたアートプロジェクトも、今年度で10回目。多文化な下町で、映画やアートを通して、多様な価値の共存を目指し活動を続けてきました。アーティストの継続的な関わりというこれまでの課題を踏まえ、今年は小学校の夏休みに合わせて会期を1ヶ月延長。アート活動から、子ども食堂や学習支援活動的な範囲まで広がる豊かな時間が生まれ、最終日に子どもたちがあわてて宿題を済ませるということもありませんでした。

引き続きテーマとなっているのは、外国につながる子どもたちとその家族です。ルーツのある国ごとにコミュニティが閉じていく傾向がある中、参加した子どもたちはアートや遊びを通して交流し、新たな人間関係を育んでいきました。また今回は、近隣の公園を会場の一つとしたことで、校区を越えて子どもたちが出会う機会を生み出しました。

さらに新たなチャレンジとして行ったのは、子どもたちの家族に関する取材と肖像写真の撮影です。インタビューの記録は映画館のロビーに展示しましたが、よくあるストーリーとして消費されないようにとアウトプットには苦心しました。

また、普段から付き合いのあった知的障害のある男性たちが支援者と共に夜の企画に参加したことも大きな出来事でした。福祉施設ではなかなか体験できないバーレスクダンスを鑑賞するという「夜遊び」の機会を得たことは重要だったと思います。その他にも、さまざまなアーティストによる企画を数多く開催し、それぞれにファンがついてきました。

一方で、多文化映画祭は集客に苦戦しました。慎ましい良作をどのように広報できるのかという部分は今後の課題です。しかし、期間を長くして企画を分散したことは、想像以上に良い結果を生みだすことができました。スタッフ自身もじっくりと企画に取組むことができたため、今後はこの方法を活かし、より企画を深めていきたいと考えています。

アーティスト来島友幸「粉もんキッチン」
撮影者／大野隆介

横浜在住モン族一家
撮影者／大野隆介

関内北口のビッグイシュー販売員
撮影者／大野隆介

中区
ほか

ハマ映画スタンプラリー プロジェクト

横浜シネマネットワーク実行委員会

連絡先
E-mail　yokohamacinemanetwork@gmail.com

団体紹介
横浜市内で活動する映画館、映画祭、上映イベントの主催者のネットワークです。さまざまなイベントや企画をとおして映画の楽しさ、豊かさを発信しています。

トークイベント（左から　田井肇　北見秋満）

会期：2018年11月17日（土）～2019年1月31日（木）
会場：横浜シネマリン、シネマ・ジャック＆ベティ
来場者数：5,775人

参加アーティスト：田井肇、北見秋満

参加団体：シネマ・ジャック＆ベティ、横浜シネマリン、シネマノヴェチェント、横濱インディペンデント・フィルム・フェスティバル2018、こども映画教室シネクラブ、手話弁士付き上映2018冬、第6回海に浮かぶ映画館、横浜学生短編映像作品上映会2018、横浜キネマ倶楽部、ヨコハマ映画祭、ヨコハマ・フットボール映画祭

主催：横浜シネマネットワーク
協賛：神奈川県興行生活衛生同業組合
協力：ヨコハマらいぶシネマ、神奈川バリアフリー映画祭

実施イベント
11月17日（土）　トークショー
11月17日（土）～1月31日（木）　ハマ映画スタンプラリー

スタンプラリーでめぐろう 横浜の映画祭やまちの映画館

「全国コミュニティシネマ会議in横浜」の開催をきっかけに、今年度は映画館支配人と映画祭代表を中心に、スタンプラリー企画を立ち上げました。このネットワーク事業の存在をアピールし、横浜の映画文化を盛り上げることがねらいです。市内に多数存在する、個性豊かな映画館と独自の視点で企画される映画祭や上映イベントをつなぐスタンプラリーと、他地域でのコミュニティシネマの取組にまつわるトークイベントを開催しました。

スタンプラリーは新しい映画体験を促すため、台紙に「映画館で観る」「映画祭・上映会で観る」の2枠を設けました。両方を埋めると抽選に応募できる仕組みです。映画の招待券や映画祭のレセプションパーティー招待券といった特別感のある特典を用意したことで、53件の応募がありました。11の映画館や上映イベント等にて台紙を配布し、地域の映画館やイベントが連携することで、映画文化を盛り上げました。映画館では、台紙に掲載している他のイベントについて問い合わせを受けることも多く、それぞれの館やイベントのファンが行き来するような状況を生み出せたと実感しています。

トークイベントのゲストは大分シネマ5支配人の田井肇さん。聞き手はヨコハマ映画祭実行委員長の北見秋満さんです。それぞれの映画にまつわる思い出を交えながら、大分での取組についてお聞きしました。

横浜は特色のある映画館が多く、映画館の外でも大小さまざまな規模でユニークなテーマを持った映画祭や上映イベントが年間を通じて行われ、バリエーション豊かな映画体験が提供されている日本有数のエリアです。しかし、一方でそれぞれの情報発信は、個別的に実施されており、その豊かな文化土壌を広く認識・体験するに至っていません。今年度はネットワークのメンバー間でイベントのカレンダーを共有し、相互にチラシ配布などの広報協力をし合いました。今後の課題は、課題の共有や交流の機会の創出です。

「昭和の怪女優 浪花千栄子」イベント終了後に

「昭和の怪女優 浪花千栄子」会場 横浜シネマリン

ハマ映画スタンプラリーの説明をする八幡温子（横浜シネマリン支配人）

西区

横浜・藤棚シネマ商店街2018

横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会

連絡先
URL　http://cinema1900.yokohama
E-mail　info@cinema1900.yokohama
TEL　045-548-8712
Facebook　https://www.facebook.com/Fujidana.cinema/

団体紹介
「横浜・藤棚シネマ商店街」は、歴史のある横浜市西区の商店街に、定員28席しかない、こだわりの映画館ができたことがきっかけになり、シネマとアートで商店街を盛り上げようと生まれたプロジェクトです。

タムラフキコのシネマイラストとそのモチーフとなったポスター（シネマノヴェチェント）

会期：2018年7月14日（土）～8月13日（月）
会場：シネマノヴェチェント、今井かまぼこ店、アンダンテ、友愛セレモニーひるた、手毬ずし、藤棚のアパートメントほか
来場者数：491人

参加アーティスト：タムラフキコ、りんたろう、丸山正雄、野田卓雄、明田川進、壇鼓太郎、城田有子、水谷利春

主催：横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会
共催：西前銀座商店街協同組合、藤棚一番街協同組合
後援：CREATIVE HOUSE オフィス63、株式会社ビーモ、ハブシステムズ有限会社、株式会社ひかり社、株式会社ケンゾウ、株式会社シネマノヴェチェント、有限会社鈴木映画

実施イベント

7月14日（土）～8月13日（月）	映画「AKIRA」上映＋ティーチイン タムラフキコ イラスト展
7月15日（日）～7月20日（金）	映画「幻魔大戦」上映＋ティーチイン 映画「AKIRA」上映
7月16日（月）、7月18日（水）～7月20日（金）	映画「幻魔大戦」上映
7月16日（月）	映画「AKIRA」上映＋ティーチイン
7月21日（土）	映画「AKIRA」上映＋ティーチイン
7月28日（土）	弁士・生伴奏つき銭湯上映会
8月4日（土）	タムラフキコによるこどもイラスト講座

銭湯上映（萬歳湯）

イラストレーションと映画がつなぐ商店街と映画館

まちの小さな映画館と商店街を舞台にしたプロジェクトの3年目。昨年同様、アートとしての「アニメーション」に着目し、商店街を舞台に映画上映、作品展示、ワークショップを開催しました。商店街を彩るのは、アニメーション映画「火垂るの墓」などの背景美術を手掛けた横浜市出身のイラストレーター・タムラフキコさんのイラストレーション原画。それぞれの店舗に合わせて選ばれた映画イラストは、来場したアニメーターにも好評でした。展示会場となった店舗をめぐるスタンプラリーも実施し、商店街を楽しむ機会を生み出しました。

映画館・シネマノヴェチェントでの映画上映では、タムラフキコさんも関わったアニメーション映画「AKIRA」と「幻魔大戦」を軸に展開。35mmフィルムによる上映とゲストを招いてのトークイベントを行いました。熱狂的なファンも多い大友克洋監督の「AKIRA」は公開30周年、「幻魔大戦」は35周年ということもあり、当時の公開日に合わせた上映を行うなど、アニバーサリーイヤーを彩りました。アニメーション作品に関するトークイベント自体は珍しくありませんが、フィルム上映という一次資料と併せて開催することで、その意義をより深く伝えることに成功しました。若年層の呼び込みについては課題が残る結果となりましたが、他県からの来場もあり、映画ファンとまちをつなぐきっかけの一つとなったことを感じています。

また、毎年大好評の銭湯上映は、当日に台風12号が上陸。暴風雨の中での開催となってしまい、集客に苦戦する結果となったのが残念です。今年度、新たにオープンした商店街の文化拠点を活用したイラストワークショップは、商店街のさつま揚げ専門店「今井かまぼこ店」が中心となって企画を実施。企画団体から商店街側と連携することができるようになったのはうれしい成果です。焦らずにやりとりを重ねていくことで、新たな夏の恒例行事としてまちに根付いていくことを目指し、活動を続けていきます。

タムラフキコのシネマイラスト（アンダンテ）

タムラフキコによる子どもイラスト講座（講師タムラフキコ）

タムラフキコによる子どもイラスト講座（参加しているちびっこ）

中区

みんな集まれ！木曜広場

ライフアートユニオン

連絡先
URL　http://www.choja.info
E-mail　info@.choja.info
TEL　090-6479-1095

団体紹介
私達は横浜市内でアーティストとして活動するグループです。横浜市内の子供、母親、高齢者、障害者、外国人の方達の生きづらさを目の当たりにして、これを何とかしたいと思い、ライフアート（生涯芸術）をテーマとした独創的・創造的文化活動を行っています。

木曜広場小鼓 撮影者／ライフアート撮影部

会期：2018年10月25日（木）～2019年1月31日（木）
会場：長者スタジオ
来場者数：35人

参加アーティスト：金宜伸、賀陽保子、Ash、金春江、今井尋也、赤羽さやか、NORIKO

主催：ライフアートユニオン
協力：長者スタジオ

実施イベント
10月25日（木）　みんな集まれ！木曜広場
11月29日（木）、
12月6日（木）、
12月13日（木）、
12月27日（木）、
1月10日（木）、
1月17日（木）、
1月24日（木）、
1月31日（木）

市内で活動するアーティストによる地域の居場所づくり

初年度となる今回は「市民全てが生活者であり表現者である」という考えのもと、10月から1月まで4か月に渡り、木曜日に定期的なワークショップを開催。社会的マイノリティである子ども、高齢者、障害者、外国人、子育てで忙しいお母さんなどが充実した芸術活動を通じて生き生きとした時間を過ごせる地域の居場所づくりを目指してスタートしました。同時に、講師となる市内在住のアーティストたちが横のつながりを持ち、新しい文化発展の場を創造することもねらいの一つです。

関内の長者スタジオを地域交流の拠点として「木曜広場」と名付け、週によって異なるジャンルのワークショップを開催しました。質の良い絵本を子どもにわかりやすく読み聞かせ、時には音楽も交えながら体を動かす「ドキドキワクワク！絵本読み聞かせ広場」、韓国舞踊や小鼓などの伝統芸能を基礎から体験する「真剣勝負！伝統芸能体験広場」や高齢者も気軽に参加できる「のんびりアロハ！フラダンス広場」、産前産後のお母さんも参加できる「ベリーダンス広場」、放課後の居場所がない子どもや友達と遊びたりない子どもたちと演劇をする「元気いっぱい放課後キッズ！演劇広場」などバリエーション豊かなプログラムを揃えました。また、講師によるワークショップだけではなく、木曜広場で教わりたいこと／教えてみたいことを一般募集してマッチングさせる「木曜マッチ」も開催。今回は、二児の母でもあるNORIKOさんに朗読のワークショップをお願いしました。

社会との接点を持ちづらい人を対象としたプロジェクトなので、地域から参加者を募ることには苦労しました。SNSなども利用して情報を広く公開しましたが、参加者数はなかなか増えず、まずは地域とアーティストの関係を丁寧に築いていく必要を強く感じました。これは効率的にできるものではありません。時間はかかりますが、地道に活動を続けていくことで達成できたらと考えています。

木曜広場フラダンス
撮影者／ライフアート撮影部

木曜広場ベリー1
撮影者／ライフアート撮影部

木曜広場ベリー2
撮影者／ライフアート撮影部

市内全域

横浜を舞台にした連作ショートフィルム「Life Works」への製作、活動助成

YOKOHAMA ART SITE アートプロジェクト 2018 Report

LifeWorksプロジェクト

連絡先
URL　http://lifeworks-film.com/
E-mail　info@lifeworks-film.com
Facebook　https://www.feacebook.com/Lifeworks.film/

団体紹介
プロデュースは、横浜在住の映画監督・利重剛と中村高寛。第1期、第2期の作品は、利重剛、松居大悟の他、横浜を代表する写真家、森日出夫が監督デビューしました。今回の第3期でも、横浜を様々な角度から切り取り、映像化できるクリエーターが参加しました。

「ハマの靴探偵」撮影風景

会期：2018年7月1日（日）～2019年1月31日（木）
会場：横浜シネマリン、シネマ・ジャック＆ベティ
来場者数：3,300人

参加アーティスト：大島智衣、井川広太郎、大崎章、足立紳、伊月肇、七里圭、稲葉まり、今野登茂子、優恵、武谷公雄、小野瀬雅生、大重わたる、坂田聡、後藤ユウミ、新津ちせ、大島正華、橋野純平

主催：LifeWorksプロジェクト
協力：伊勢佐木町商店街（イセザキ・モール1・2st.）、協同組合伊勢佐木町商店街

実施イベント

7月1日（日）～2019年1月31日（木）	ライフワークス6作品制作
1月2日（水）～1月22日（火）	「しあわせだったにゃよ」上映
1月23日（水）～1月31日（木）	「ハマの靴探偵」上映

ハマっ子に愛される短編映画で映画館に訪れるきっかけを

横浜を舞台に「日常に生きる人々の、人生の一瞬を切り取る」というコンセプトで、さまざまな監督を呼び、ショートフィルムを制作するプロジェクトの第3期。完成した作品を市内の単館系ミニシアターで本編映画のおまけとして無料上映することで、映画館での映画体験を促すことがねらいです。

制作は順調に進み、6本のショートフィルムを制作することができました。今期新しく参加してくれた監督たち（井川広太郎、大崎章、伊月肇、七里圭、稲葉まり）が、それぞれバラエティに富んだ作品を作ったことで、企画の幅が更に広がったと感じています。横浜は魅力的なロケーションも多く、撮影に協力的なまちですが、撮影されたものが「横浜の風景」として発信されることはあまり多くありません。だからこそ、このプロジェクトでは「都会」「港町」といったイメージの風景ではなく、移り変わる横浜の風景を記録し、実際にそこに住む人々のにおいや生活を感じられるような映画を作っていく必要を痛感しています。また、横浜の映画ということを伝えると喜んで協力してくれる方も多く、ロケ地周辺で生活している方に出演をお願いすることもありました。

上映に関しても、わざわざ舞台挨拶を目当てに来館される方の姿もあり、企画自体が横浜のまちに受け入れられているのだなと実感しました。おまけ映画にも関わらず、楽しみに待っていてくれた方も多く、喜びを感じています。「ずっと続けてね」という観客からの声に勇気付けられ、これからもコツコツと続けていけたらという気持ちを新たにしました。

一方で無料上映という企画の性格上、制作費回収の手段が無いため、制作費の捻出が難しいという悩みもあります。特集上映時の上映料や寄付金だけでは、とても制作費をカバーできないのが現状です。今後もこの企画を続けて行くためには、豊かな表現を守りつつ、継続に支援をしてくれる企業やスポンサーを見つけることが課題です。

「しあわせだったにゃよ」舞台挨拶

「ハマの靴探偵」撮影風景

「ハマの靴探偵」集合写真

「ハマの靴探偵」舞台挨拶

西区
中区

LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA ART PROGRAM 2018 ～子どもの感性を磨く多文化共生グローバルアート活動～

LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA

連絡先
URL https://www.littleartiststleague.org/
E-mail littleartiststleague@gmail.com
TEL 080-5064-2894
Facebook https://www.facebook.com/littleartiststleague/

団体紹介
母になったアーティストが立ち上げた、グローバルアートイベントを実施している団体。アートを通して国際交流をすることで多様性を受け入れ、オープンマインドな発想を育むことをミッションとしています。

ドリームコンサート　撮影者／井上綾乃

会期：2018年7月1日（日）～2019年1月14日（月）
会場：西区福祉保険活動拠点「フクシア」、横浜市民ギャラリー、象の鼻テラス、横浜市民活動支援センター、YCC ヨコハマ創造都市センター
来場者数：517人

参加アーティスト：望月実音子、ルミコハーモニー、小山奈那子、一色真由美、黒川紗恵子、田中庸介、大口俊輔

主催：LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA
協力：NPO法人ザ・グローバル・ファミリーズ、横浜インターナショナルスクール、かんきょうデザインプロジェクト

実施イベント

7月1日（日）	INSPIRED BY MONET - Painting with Impressionist Techniques
7月22日（日）	SEE YOUR WORK ON DISPLAY - Yokohama Civic Gallery Walk
8月13日（月）～8月15日（水）	モネの蓮池を作ろう MAKE MONET'S WATER LILY POND
9月30日（日）	Giuseppe Arcimboldo ~ Food & Flower Collage
10月21日（日）	YAYOI KUSAMA ~ Pumpkin Painting
11月10日（土）	World of Leo Lionni - AUTUMN NATURE COLLAGE
12月15日（土）	DREAM WORLD こどもとゆめとイマジネーションの世界
1月14日（月）	HOKUSAI'S FUJI

美術ワークショップでグローバルな視点を育む

未就学児とその家族を対象に、インターナショナルコミュニティと地域のコミュニティを結ぶグローバルなアートプロジェクトの3年目。インターナショナルコミュニティに向けたアートワークショップ、公開アートワークショップとアートイベントを開催しました。アートを通じて多様性を伝えることをねらい、さまざまな技法とテーマの組み合わせを提案しました。レオ・レオニをテーマに葉っぱのコラージュをしたり、草間彌生をテーマにカボチャをデコレーションしたり。テーマとなるアーティストも毎回異なる国から選択しました。美術の専門家がいない幼稚園などの創作活動では、キットを使用したり、お手本を真似たりと、なかなか一人ひとりの個性を引き出すのが難しい環境にあります。ワークショップでは「ここでは何をどう表現してもいいんだ」と感じられる場づくりを心掛けたことで、自由な表現をサポートしました。

特に、象の鼻テラスで行ったワークショップは大好評で、団体の方針に関わる転機となりました。大好評となった理由の一つはテーマとなったクロード・モネの知名度の高さ。そしてワンコインで体験できるという手頃さです。結果的に200名以上が参加し、多くの方にアートに触れる場を提供できました。これをきっかけに、より知名度の高い題材を扱うようにしたところ、毎回ウェイティングリストが出来るほど参加要望が高くなり、経済的な面での継続可能性が高まりました。

国際結婚をした家庭の子どもたちの多くは、家の中と外で異なる文化に触れるため、アイデンティティを形成することの難しさを抱えています。こうしたイベントをきっかけに同じような家庭が集まり、新たなコミュニティが形成されることは、子どもたちが独自のアイデンティティや、自己肯定感を育てることにもつながっているのです。来年度は、平日のワークショップシリーズをスタートさせるほか、出張企画も精力的に行っていく予定です。

モネの蓮池-完成作品
撮影者／井上綾乃

モネの蓮池-展示
撮影者／井上綾乃

ドリームボトルペインティング
撮影者／井上綾乃

ロビン先生の英語タイム
撮影者／井上綾乃

ヨコハマアートサイト2018をふりかえる

Look back over the Yokohama Artsite 2018

横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト」は、
地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、
文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの
活性化と結びつける文化芸術活動や、
横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を
広く公募し、支援する事業です。

2018
YOKOHAMA
Art Site

5月

採択＆選考

選考委員

松 本 道 雄（認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 副理事長）
吉 野 さつき（愛知大学 文学部 人文社会学科 教授）
佐 藤 千 晴（フリージャーナリスト）
戸 舘 正 史（愛媛大学 社会共創学部 助教）
藤　川　悠（茅ヶ崎市美術館 学芸員）

外部の有識者で構成されたヨコハマアートサイト2018選考委員会により
選考を行いました。

実施区	団体名／事業名	採択額
金沢区	アーティストネットワーク＋コンパス／「会社まるごとギャラリー2018」	¥600,000
都筑区、緑区ほか	特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク／ アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト	¥400,000
中区、南区	認定NPO法人あっちこっち／ アート・フォー・コミュニティ～若手アーティスト達が人と地域コミュニティをつなぐためのスタート事業～	¥1,700,000
中区	石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会／石川町ストリートアートプロジェクト	¥900,000
中区、港北区	居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会／ カドベヤ・オープンDAY―つどおう・かたろう・つながろう	¥270,000
南区	大岡川アートプロジェクト実行委員会／ 大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなぁど2018」	¥600,000
都筑区、中区	かたるべハッピーザ／かたるべハッピーザ	¥1,000,000
金沢区	金沢文庫芸術祭実行委員会／第20回金沢文庫芸術祭	¥560,000
西区、中区	紙芝居文化推進協議会／第19回手づくり紙芝居コンクール	¥390,000
中区	特定非営利活動法人 S.A.I.／ 『部屋を育てる』アートプロジェクト（セノグラフィックアートの視点から部屋～街を考える）	¥1,200,000
栄区	さかえegaoプロジェクト／さかえegaoフェスティバル	¥300,000
市内全域	NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと／こころに響く打楽器作っちゃおう	¥1,000,000
緑区	都筑アートプロジェクト／米からアート「二つの米から考える」	¥600,000
栄区	ティーンズクリエイション組織委員会／Wakamono Arts Festival 2018	¥250,000
中区、栄区	一般財団法人日本京劇振興協会／こども京劇プロジェクト　in　Yokohama	¥600,000
中区ほか	Picture This Japan／ PICTURE THIS 2018: 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト	¥600,000
緑区	NPO法人ぷかぷか／みんなでワークショップ	¥1,000,000
中区	特定非営利活動法人横浜山手アーカイブス／ 横浜山手今昔　＜絵葉書の世界～新関光二コレクション～＞	¥300,000
磯子区、栄区	洋光台ママゴスペルサークル　なないろハーモニー／ そのままで輝こう♪～ゴスペルコンサート＆ワークショップ～	¥300,000
西区	横浜開港アンデパンダン展実行委員会／第七回横浜開港アンデパンダン展＆干支の絵展	¥150,000
中区	横浜キネマ倶楽部／映画『どっこい！人間節 寿・自由労働者の街』上映会 in 寿町～寿町をもっと知ろう！最後の1人まで見捨てない街！～	¥130,000
中区、西区ほか	横浜下町パラダイスまつり実行委員会／ 横浜下町パラダイスまつり2018＋よこはま若葉町多文化映画祭2018	¥1,440,000
中区ほか	横浜シネマネットワーク実行委員会／ハマ映画スタンプラリー　プロジェクト	¥210,000
西区	横浜・藤棚シネマ商店街実行委員会／横浜・藤棚シネマ商店街2018	¥500,000
中区	ライフアートユニオン／みんな集まれ！木曜広場	¥500,000
市内全域	LifeWorksプロジェクト／ 横浜を舞台にした連作ショートフィルム「Life Works」への製作、活動助成	¥1,500,000
西区、中区	LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA／LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA ART PROGRAM 2018 ～子どもの感性を磨く多文化共生グローバルアート活動～	¥500,000

季刊ヨコハマ アートサイト Vol.016発行

特集
「味わってつながる」

6月

事業実施前 ヒアリング

参加団体と事務局が個別に面談し、事業実施に向けての情報共有を行った。

6月6日（水）

キックオフ・ミーティング

参加団体による活動紹介と、事務局より1年間の流れや各種手続きについての説明を行った。

会場：BUKATSUDOホール

7月

ヨコハマ アートサイト2018 事業開始

事業実施後 ヒアリング

参加団体と事務局が個別に面談し、プロジェクトを実施してみての成果や課題などを共有し、フィードバックを行った。

9月

季刊ヨコハマ アートサイト Vol.017発行

特集
「歌のある場所」

11月27日（火）

アートサイトラウンジVol.18「アーティストin商店街」

商店街をひとつの地域コミュニティと捉え、アーティストとまちの人が協働して行われるアートプロジェクトの裏側について、3人のゲストによるトークセッション。商店街、アーティスト、さらにそれを支援する人々。異なる立場から見る「商店街とアーティストの協働」について事例報告とディスカッションを行った。

ゲスト：飯田峰子（石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会／ひらがな商店街ウエストアベニュー会長）、厚地美香子（認定NPO法人あっちこっち理事長）、内木里美（ダンサー／こどもディスコ主宰）
会場：マーケットテラスカフェ石川町

アートサイトラウンジとは

ヨコハマアートサイトでは、年4回、アートと地域の関わりについて考える研修と交流の場として「アートサイトラウンジ」を開催しています。地域文化に興味のある方なら、どなたでもご参加いただけます。

12月

季刊ヨコハマ アートサイト Vol.018発行

特集
「道ばたの風景から」

ヨコハマ
アートサイト2018
事業終了

1月
2019

アートサイトラウンジVol.20
「場づくりとアートの営み」

市民の芸術活動を支える場のひとつとして機能するアートワークショップの「ファシリテーション」についてのトークセッション。
※TPAM(国際舞台芸術ミーティングin横浜)提携事業

撮影者／前澤秀登 | Hideto Maezawa

ゲスト：荻野亮一（社会学研究者）、青木拓磨（音楽家／かたるべハッピーザ 代表）、渡邉梨恵子（一般社団法人 谷中のおかって 代表）
会場：Kosha33 ホール

1月25日
（金）

アートサイトラウンジVol.19
「子どものアトリエから考えたこと」

地域のアート活動で主役になるのは、子どもたち。みなとみらいの横浜美術館では、1989年の開館当初から現在に至るまで、子どもたちを対象とした創造の場「子どものアトリエ」で、多彩なワークショップを展開。美術館教育（教育普及）や幼児教育をめぐるスタッフが設立当初に思い描いた思いはどのようなものだったか、その立ち上げに関わった三ツ山一志さんによるトーク。

ゲスト：三ツ山一志（横浜市民ギャラリー 主席エデュケーター）
聞き手：浅葉 弾（金沢文庫芸術祭 実行委員長）
会場：港南区民文化センター・ひまわりの郷 音楽ルーム

2月17日
（日）

季刊ヨコハマ
アートサイト
Vol.019発行

特集
「まちなかの
プロデューサー」

3月

アートサイトラウンジVol.21
「まちでのアート、
次のステップどうつくる？」

地域でアート活動を行う団体の課題や悩みを、市民活動としての視点で考える試み。あわせて、ヨコハマアートサイト助成金の説明も行った。

ゲスト：薄井智洋（認定NPO法人市民セクターよこはま）、片岡直子（紙芝居文化推進協議会）、半谷麻意子（NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと）
会場：mass×mass 関内フューチャーセンター

3月5日
（火）

ヨコハマアートサイト2018報告会
「アートの現場から見る地域文化」

各団体による事業報告と、その中で見えてきた横浜における地域文化の今を探るトークセッション。終了後には交流会を設け、参加団体が共に一年間を振り返った。

ゲスト：原 美紀（認定NPO法人 びーのびーの 副理事長・事務局長）、藤川 悠（茅ヶ崎市美術館 学芸員）
会場：YCC ヨコハマ創造都市センター 3F

3月16日
（土）

ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する

季刊ヨコハマアートサイトとは

「横浜の地域文化を考える・応援する」をテーマに、ヨコハマアートサイトの広報プログラムの一環として、参加団体の取組を中心に、横浜の地域文化に焦点をあて、各地域での取組を幅広く紹介する冊子です。
今年度はvol.16、vol.17、vol.18、vol.19の計4冊を発行しました。
※区役所や市内外の文化施設を中心に配架しています。バックナンバーをご希望の方はヨコハマアートサイト事務局へご連絡ください。

Vol. 016 特集「味わってつながる」

鶴見の田祭り（鶴見区）
JA横浜　クッキングサロン　ハマッ子（都筑区）
NPO法人横浜ガストロノミ協議会（中区）
中山肉店（緑区）

レポート
ヨコハマアートサイト2017報告会（中区）
ヨコハマアートサイト2018キックオフ・ミーティング（西区）

コラム　地域文化の風景
まちに流れる大岡川が育んだ人々の営み／若尾久志

事務局うろうろ日記
「銭湯と横浜」展（中区、都筑区）、「カメラのしくみ」展（青葉区）
元気に泳げ！こいのぼり（戸塚区）、森と遊ぼうワークショップ（緑区）

Vol. 017 特集「歌のある場所」

かたるべハッピーザ（都筑区）
洋光台ママゴスペルサークル　なないろハーモニー（磯子区）
武州金沢釜利谷宿郷土芸能保存会（金沢区）

レポート
昨年度のアートサイトラウンジ

コラム　地域文化の風景
歴史ある街で生まれる自分たちの新しいアート／齊藤実雪

事務局うろうろ日記
「米からアート」展（緑区）
横浜山手今昔　＜絵葉書の世界～新関光二コレクション～＞（中区）
ボイストレーニング　声でつながろ！（中区）
モネの蓮池を作ろう MAKE MONET'S WATER LILY POND（中区）

Vol. 018 特集「道ばたの風景から」

都筑アートプロジェクト（緑区）
LifeWorksプロジェクト（中区）
横浜キネマ倶楽部（中区）
時をかけるヨコハマ（中区）

レポート
アートサイトラウンジvol.18「商店街inアーティスト」（中区）

コラム　地域文化の風景
伝統を守るため外に向かって「はじめの一歩」／川井康裕

事務局うろうろ日記
WaWaWa！MM駅ナカ祭り（西区）、リリスの大冒険（栄区）
金沢文庫芸術祭（金沢区）
会社まるごとギャラリー2018（金沢区）

Vol. 019 特集「まちなかのプロデューサー」

石川町ストリートアートプロジェクト（中区）
さかえegaoフェスティバル（栄区）
二階劇場（神奈川区）
はっぱオールスターズ（市内全域）

レポート
アートサイトラウンジvol.19「子どものアトリエから考えたこと」（港南区）

コラム　地域文化の風景
居留地の歴史を持つ港町が育んできたヨコハマ・スピリット／大房奈央子

事務局うろうろ日記
柴燈護摩火生三昧（さいとうごまかじょうざんまい）火渡り修行（港北区）
福祉農園（都筑区）、金沢文庫芸術祭（金沢区）
NPO法人S.A.I.（中区）